11月21日(土)　　第1会場（石川県立音楽堂　2F　コンサートホール）

年会長講演　8:50〜9:20

2040年の社会課題を解決する医療薬学の融合研究〜すべての薬剤師が集う学術的基盤を目指して〜

座長：大井　一弥（鈴鹿医療科学大学薬学部）

YPL1　2040年の社会課題を解決する医療薬学の融合研究〜すべての薬剤師が集う学術的基盤を目指して〜

○崔　吉道
第36回日本医療薬学会年会長／金沢大学附属病院

年会企画シンポジウム1　9:30〜11:30

平時・有事における医薬品安定供給確保問題を解決する医療薬学の融合研究

オーガナイザー：崔　吉道（金沢大学附属病院薬剤部）
川上　貴裕（金沢大学附属病院薬剤部）
座長：崔　吉道（金沢大学附属病院薬剤部）
川上　貴裕（金沢大学附属病院薬剤部）

YPS1-1　医薬品は足りないのか、届いていないのか－需給ギャップの視点から考える－

○川上　貴裕
金沢大学附属病院薬剤部

YPS1-2　令和6年能登半島地震における医薬品供給体制の確保と今後の課題（行政の立場から）

○福井　優子
石川県南加賀保健福祉センター

YPS1-3　能登半島地震での活動報告と、供給側からみた平時の流通の取り組み

○石黒　亘
明祥株式会社

YPS1-4　医薬品安定供給とレジリエンス強化に向けた取組

○松下　俊介
厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課

YPS1-5　災害処方箋解析による能登半島地震の医薬品需要実態の解明―発災後の時系列と被災地間の差異に着目した比較検討―

○溝口　拓
金沢大学医薬保健学域薬学類

YPS1-6　持続可能な医療を支える医薬品サプライチェーンの新たな地平を拓く〜Supply Chain から Digital Healthcare Value Networkへ〜

○吉成　友宏
武田薬品工業株式会社サプライチェーンマネジメント部

年会企画シンポジウム2　13:20～15:20

小児に「使える薬」を届けるために　―産官学がつなぐ小児製剤の課題と展望―

オーガナイザー：水谷　直也（塩野義製薬株式会社製薬技術研究本部製剤研究所）
座長：水谷　直也（塩野義製薬株式会社製薬技術研究本部製剤研究所）
原田　努（明治薬科大学生命創薬科学科CMC・製剤工学研究室）

YPS2-1　小児に真に「届き、使われる薬」を実現するための展望～厚生労働科学指定研究事業から～

○齊藤　順平
国立成育医療研究センター薬剤部

YPS2-2　小児に「使える薬」を「使われる薬」に～産官学と地域の薬局まで含めた連携による小児用製剤開発と医薬品提供体制～

○川名　三知代
帝京大学薬学部社会薬学研究室

YPS2-3　子どもの服薬の現状と服薬支援

○原田　香奈
東邦大学医療センター大森病院

YPS2-4　小児に届けるための“製剤設計”― 2つの検討事例からみた製剤開発の工夫と展望 ―

○水谷　直也
塩野義製薬株式会社製薬技術研究本部製剤研究所

YPS2-5　小児に適した剤型（ミニタブレット）に関する産官学の取り組み

○中道　克樹[1,2]
[1]公益社団法人日本薬剤学会小児製剤フォーカスグループ（FG）、[2]沢井製薬株式会社製剤研究部製剤IVグループ

年会企画シンポジウム3　15:40～17:40

2040年への航海図～既存の枠を超え、学生たちが本音で描く専門性の活かし方座談会～

オーガナイザー：熊代　悠生（金沢大学医薬保健学域医学類）
長基　健人（株式会社コメヤ薬局）
座長：湊　千真（金沢大学医薬保健学域薬学類）
中島　久徳（株式会社コメヤ薬局）

YPS3-1　若いチカラが突破口！？―2040年の医療を、「今」から「みんな」で創る―

○湊　千真[1]、熊代　悠生[2]、長谷川　優葵[2]、五十嵐　歩佳[3]、金田　聖琉[4]、昼馬　悠名[5]、南　李々花[6]、中島　久徳[7]
[1]金沢大学医薬保健学域薬学類、[2]金沢大学医薬保健学域医学類、[3]金沢大学人間社会学域法学類、[4]北陸大学薬学部薬学科、[5]和歌山県立医科大学薬学部薬学科、[6]石川県立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻、[7]株式会社コメヤ薬局

11月21日(土)　　第2会場（石川県立音楽堂　2F　邦楽ホール）

シンポジウム001　　9:30〜11:30

2040年問題に向けた脳卒中医療と薬剤師の融合的役割 ―急性期から地域連携まで―

オーガナイザー：寺田　智祐（京都大学医学部附属病院薬剤部）
大山　要（長崎大学病院薬剤部）
座長：坂元　利彰（長崎大学病院薬剤部/脳卒中・心臓病等総合支援センター）
瀬戸　亘（札幌東徳洲会病院薬剤部）

21-02-S001-1　脳卒中治療および薬物療法のオーバービュー
○南部　鴻介
金沢大学脳神経外科

21-02-S001-2　日本における脳卒中治療の現状と課題
○川田　将義
京都大学医学部附属病院薬剤部

21-02-S001-3　脳卒中治療における病棟担当薬剤師の役割
○瀬戸　亘
札幌東徳州会病院薬剤部

21-02-S001-4　急性期病院からつなぐ脳卒中患者の薬物療法 〜薬剤師間情報連携の実際〜
○菅原　隆文
地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立広島市民病院薬剤部

21-02-S001-5　脳卒中予防における薬剤師の新たな役割
―脳卒中・心臓病等総合支援センターと地域薬局の協働―
○坂元　利彰[1,2]
[1]長崎大学病院薬剤部、[2]長崎大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センター

教育講演1　　13:20〜14:10

座長：加藤　将夫（金沢大学医薬保健研究域薬学系）

EL1　肝発がんの予測と予防を目指して
○山下　太郎
金沢大学医薬保健研究域医学系消化器内科学

教育講演2　　14:30〜15:20

座長：玉井　郁巳（金沢大学名誉教授）

EL2　高血圧から心不全へ―多職種で実践する循環器薬物療法
○薄井　荘一郎
金沢大学医薬保健研究域医学系循環器内科学

シンポジウム018 **15:40〜17:40**

がん専門薬剤師の薬学的介入のポイント　〜患者さんの未来を拓くがん専門薬剤師の役割と使命〜

オーガナイザー：池田　龍二（宮崎大学医学部附属病院薬剤部）
河原　昌美（愛知学院大学薬学部）
座長：池田　龍二（宮崎大学医学部附属病院薬剤部）
三宅　知宏（伊勢赤十字病院薬剤部）

21-02-S018-1　**趣旨説明と2025年度の認定状況**

○池田　龍二
宮崎大学医学部附属病院薬剤部

21-02-S018-2　**患者さんの未来を拓くのは、あなたかもしれない　〜がん専門薬剤師という選択とその魅力〜**

○三宅　知宏
伊勢赤十字病院薬剤部

21-02-S018-3　**伝わる症例の書き方と注意点**

○玉木　慎也
KKR札幌医療センター薬剤科

21-02-S018-4　**「休薬すべきか」を見極める―進行腎細胞癌治療における有害事象鑑別が治療継続に寄与した症例―**

○梅原　健吾
国立病院機構北海道がんセンター薬剤部

21-02-S018-5　**小児再発横紋筋肉腫　〜悪心・下痢に対する支持療法への薬学的介入〜**

○増渕　敬久
聖路加国際病院薬剤部

21-02-S018-6　**エベロリムスによる薬剤性間質性肺炎に対する薬学的介入**

○間　勝之
日本大学医学部附属板橋病院

21-02-S018-7　**大腸がん　〜血液透析患者に対する社会的背景を考慮した薬学的介入〜**

○林　宏紀
小牧市民病院薬局

共催：がん専門薬剤師認定委員会

11月21日(土)　**第3会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間(西・中)）**

シンポジウム002 **9:30〜11:30**

患者の意思決定支援に対し薬剤師に求められる役割とは― 2040年に向けた薬剤師の介入における障壁と道筋 ―

オーガナイザー：大内　友季江（光ヶ丘スペルマン病院薬剤科）
三宅　健文（社会医療法人誠光会淡海医療センター薬剤部）
座長：大内　友季江（光ヶ丘スペルマン病院薬剤科）
三宅　健文（社会医療法人誠光会淡海医療センター薬剤部）

21-03-S002-1　**これからの「薬剤師≠薬物療法」の意思決定支援とは**

○大内　友季江
光ヶ丘スペルマン病院薬剤科

21-03-S002-2　がん患者の人生の最終段階の意思決定支援における薬剤師の役割～緩和ケア病棟薬剤師の関わり～

○杉本　智哉
トヨタ記念病院薬剤科

21-03-S002-3　病みの軌跡に寄り添う意思決定支援とACPへの橋渡し― 心不全緩和ケアにおける薬剤師の役割 ―

○高井　靖
三重ハートセンター薬局

21-03-S002-4　保存期腎不全から透析終了後までを支える治療選択 ―長期的伴走のなかで患者の価値観を繋ぐ薬剤師の役割―

○富田　敏章
平成紫川会小倉記念病院薬剤部

21-03-S002-5　在宅緩和ケアにおける意思決定支援　―在支診薬剤師の視点と役割―

○餅原　弘樹
医療法人社団いぶきの森のぞみの花クリニック

21-03-S002-6　意思決定支援：将来を考えることの特徴―ACPを念頭に

○森田　達也
聖隷三方原病院緩和支持治療科

シンポジウム501　13:20～14:50

心不全診療のパラダイムシフトに薬剤師はどう応えるか？ ～改訂ガイドラインを実践するためのTips～

オーガナイザー：吉国　健司（JCHO九州病院薬剤部）
芦川　直也（豊橋ハートセンター薬局）
座長：吉国　健司（JCHO九州病院薬剤部）
芦川　直也（豊橋ハートセンター薬局）

21-03-S501-1　心不全診療ガイドラインの真髄：脆弱期を支える移行期ケアと薬剤師への期待

○衣笠　良治
在宅ケアクリニック米子

21-03-S501-2　画像・心エコー・臨床所見を活かして応えるGDMT最適化：Up-titration実践のTips

○武田　真央
川崎市立多摩病院（指定管理者：聖マリアンナ医科大学）薬剤部

21-03-S501-3　急性期心リハを止めない薬物療法支援～ 早期離床を支える薬剤師の安全管理と多職種連携 ～

○田中　雅幸[1,2]、諏訪　恵信[3]
[1]摂南大学薬学部、[2]関西医科大学附属病院薬剤部、[3]関西医科大学附属病院循環器内科

21-03-S501-4　目まぐるしい病棟から地域へ紡ぐ心不全「移行期ケア」の実践

○木村　円
金沢大学附属病院薬剤部

21-03-S501-5　エビデンスのない問いに向き合う心不全ケアー多職種で紡ぐ意思決定支援ー

○大橋　泰裕
滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部

共催：特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会
一般社団法人　日本循環器学会

シンポジウム506　15:00～16:30

社会課題となるがん治療関連心機能障害(CTRCD)に挑む！薬剤師に求められる包括的薬学管理とは

オーガナイザー：藤堂　真紀（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）
増田　信一（国立がん研究センター東病院薬剤部）
座長：藤堂　真紀（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）
増田　信一（国立がん研究センター東病院薬剤部）

21-03-S506-1　CTR-CVT時代におけるわが国の腫瘍循環器診療―多職種連携と薬剤師への期待―

○岡　亨
埼玉県立がんセンター

21-03-S506-2　腫瘍循環器診療を支える薬剤師の役割 ― 臨床・研究・多職種連携の実践 ―

○渋谷　悠真
国立がん研究センター東病院薬剤部

21-03-S506-3　腫瘍循環器診療における薬剤師と循環器内科医の協働アプローチ-アントラサイクリン系抗がん薬開始前リスク評価体制の構築-

○中村　純平
NTT東日本関東病院薬剤部

21-03-S506-4　循環器に関わる薬剤師の視点でがんと生きる患者の支援を考える：循環器×がんの協働で目指す包括的薬学管理

○新澤　健太
国立病院機構金沢医療センター薬剤部

21-03-S506-5　大学と医療機関で実践する腫瘍循環器研究

○野田　哲史
立命館大学薬学部医療薬学研究室１

共催：一般社団法人日本腫瘍循環器学会

シンポジウム511　16:40～18:10

精神科×救急における薬剤師の専門性の深化-不穏・急性興奮・自殺リスク・薬物中毒・災害時にどう関わるか -

オーガナイザー：赤嶺　由美子（秋田大学医学部附属病院薬剤部）
橋田　律（琉球大学病院薬剤部）
座長：赤嶺　由美子（秋田大学医学部附属病院薬剤部）
橋田　律（琉球大学病院薬剤部）

21-03-S511-1　急性期精神症状患者に対する薬学的介入　ー 救急認定薬剤師の視点から ー

○平識　善彦
医療法人徳洲会中部徳洲会病院

21-03-S511-2　過量服用救急搬送例への対応～医療安全の視点・病棟薬剤師の役割～

○外間　登
琉球大学病院薬剤部

21-03-S511-3　急性薬物中毒診療を起点とした薬剤師の連携支援～血中濃度評価による知見の蓄積と地域共有～

○渡辺　圭
日本医科大学多摩永山病院薬剤部

21-03-S511-4　不穏を伴う終末期患者の救急対応― 緩和ケアチーム介入によるマネジメント ―

○橋田　律
琉球大学病院薬剤部

21-03-S511-5　ミルキクツナグを被災者・支援者支援に活かす

○北川　航平
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター臨床研究部

11月21日(土)　第4会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間(東)）

シンポジウム003　9:30～11:30

AI・DX・ICTと医療アプリが支える次世代薬剤業務

オーガナイザー：寺薗　英之（鹿児島大学病院）
座間味　義人（岡山大学病院）
座長：寺薗　英之（鹿児島大学病院）
座間味　義人（岡山大学病院）

21-04-S003-1　データサイエンス・DX・AIを基盤とした大学病院薬剤部運営と地域医療への社会実装

○座間味　義人
岡山大学病院薬剤部

21-04-S003-2　現場主導による医療DXの業務実装 ―情報共有基盤とRPAを活用した業務改革―

○竹澤　崇
信州大学医学部附属病院

21-04-S003-3　バイブコーディングによる現場発の医療DX ― 対物業務の効率化を実現する内製アプリ開発

○寺薗　英之
鹿児島大学病院薬剤部

21-04-S003-4　現場の実践を社会実装へ ― PHRを用いた服薬フォローアップと病院・薬局連携の展開

○竹部　亨
株式会社カケハシ

シンポジウム502　13:20～14:50

データサイエンスによる抗菌薬適正使用の推進戦略

オーガナイザー：石澤　啓介（徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野）
座長：石澤　啓介（徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野）
中馬　真幸（旭川医科大学病院薬剤部）

21-04-S502-1　全国医療機関アンケートからみた抗菌薬供給不足の実態と供給制限時の対応

○新村　貴博
徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野

21-04-S502-2　抗菌薬関連有害事象のデータサイエンスに基づく評価と適正使用への展開

○中馬　真幸
旭川医科大学病院薬剤部

21-04-S502-3　下水・医療排水から捉える薬剤耐性菌の動態

○鈴木　仁人
国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所薬剤耐性研究センター

21-04-S502-4　薬剤感受性試験では捉えきれない抗菌薬効果の菌株間差

○港　雄介
藤田医科大学感染症研究センター感染症創薬研究部門

シンポジウム507　15:00～16:30

薬剤師研究を“進める”研究手法　―現場で実装可能な方法論―

オーガナイザー：小泉　龍士（国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターAMR臨床リファレンスセンター）
栗島　彬（国立健康危機管理研究機構システム基盤整備局医療DX部）
座長：小泉　龍士（国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターAMR臨床リファレンスセンター）
栗島　彬（国立健康危機管理研究機構システム基盤整備局医療DX部）

21-04-S507-1　観察研究を支えるデータセット構築と交絡調整の考え方

○山口　諒
東京大学医学部附属病院薬剤部

21-04-S507-2　時系列分析

○村上　修太郎
東京都立多摩総合医療センター薬剤科

21-04-S507-3　主成分分析とクラスター分析を用いた分類手法について

○荘司　智和
東京薬科大学薬剤疫学講座

21-04-S507-4　薬剤師が取り組む医療経済分析：単施設の費用効果分析から多施設データベース研究への展開

○橋本　悠生
独立行政法人国立病院機構本部医療部情報分析課

シンポジウム512　16:40～18:10

DX・AIが進展した現在・未来における薬局薬剤師

オーガナイザー：佐藤　宏樹（東京大学大学院薬学系研究科）
堀　里子（慶應義塾大学薬学部）
座長：佐藤　宏樹（東京大学大学院薬学系研究科）
堀越　博一（公益社団法人日本薬剤師会）

21-04-S512-1　DX・AI時代の薬局薬剤師：生成AIを活用した服薬指導の質向上への挑戦

○長谷川　佳孝
株式会社アインホールディングス

21-04-S512-2　遠隔服薬指導が解消する薬剤師の地域偏在、創る新しい患者体験

○望月　亮輔
タイムリープ株式会社

21-04-S512-3　薬局プレアボイドをAIで活かす－薬剤師の「気づき」を支援する未来－

○佐藤　宏樹[1,2]
[1]東京大学大学院薬学系研究科、[2]東京大学大学院情報学環

21-04-S512-4　DX・AI時代の薬局薬剤師―情報を捉え、対話とよりよいケアにつなぐ

○堀　里子
慶應義塾大学薬学部

11月21日(土)　　第5会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　瑞雲）

年会企画国際シンポジウム　9:30～11:30

がん支持療法における薬剤師の役割と次のステージ

オーガナイザー：Hitoshi Kawazoe (School of Medicine, Keio University)
座長：Hitoshi Kawazoe (School of Medicine, Keio University)
Hirotoshi Iihara (Department of Pharmacy, Gifu University Hospital)

YPIS-1 Beyond the Prescription: The Impact of Oncology Pharmacist in Supportive Care and Survivorship

○Alexandre Chan[1,2]
[1]Department of Cancer Survivorship and Wellness, National Cancer Centre Singapore, Singapore、[2]Department of Clinical Pharmacy Practice, School of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences, University of California, Irvine, USA

YPIS-2 A Phase III Randomized Trial Evaluated the Prophylactic Effect of Diclofenac Cream on Capecitabine-Induced Hand–Foot Syndrome: From Clinical Evidence to Global Supportive Care Collaboration

○Yohei Iimura
Department of Pharmacy, The IMSUT Hospital, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Japan

YPIS-3 A pharmacist-led oral care education program and outcomes in France and Japan

○Kensuke Yoshida
Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences

YPIS-4 A Role Shaped by Strengths and Challenges within the Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC): Addressing Evidence Gaps in Antiemetic Therapy for Older Adults as a Pharmacist

○Daichi Watanabe
Practical Pharmaceutical Research Center, Gifu Pharmaceutical University

助成：公益社団法人小林がん学術振興会

シンポジウム012(International Symposium　国際交流員会企画)　13:20～15:20

Next-Generation Hospital Pharmacy toward 2040: AI, Digital Health, and Integrative Translational Patient Care

オーガナイザー：Hisakazu Otani (Department of Pharmacy, Keio University)
座長：Kyung Suk Choi (Vice President of KSHP, Seoul National University Bundang Hospital)
Hirofumi Jono (Department of Pharmacy, Kumamoto University Hospital)

21-05-S012-1 Pharmacometric simulation of vancomycin removal during hemodialysis: expanding the role of therapeutic drug monitoring

○Kazutaka Oda[1,2]、Fumihiro Nishimura[1,2]、Shoji Kondo[1,2]、Hirofumi Jono[1,2]
[1]Department of Pharmacy, Kumamoto University Hospital、[2]Department of Clinical Pharmaceutical Sciences, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University

21-05-S012-2 Leveraging Embedded and Parallel AI Platforms to Expand Hospital Pharmacy Capacity for IV Compatibility and Antibiotic Renal Dosing Reviews.

○Seulki Han、Mijung Kim、Yoonyoung Shin、Sunyoung Kim、Miran Shin、Yubin Shin、Dayoung Song
Department of Pharmacy, Soon Chun Hyang University Hospital Seoul, Seoul, South Korea.

21-05-S012-3 Future Technology to Improve Medication Safety (Pre, During, Post Hospital Visit) and Informatics/Digital Literacy of Hospital Pharmacist

○Kamonsak Reungjarearnrung
President of Asia Pacific Oncology Pharmacy Association (APOPA)

21-05-S012-4 From Clinical Trials to Patient Care and Education: A Translational Continuum of Hospital Pharmacy Practice in Taiwan

○Cheng Chih Wu
Department of Medical Education, Center of Evidence-based Medicine Kaohsiung Chang Gung Memorial Hospital

11月21日(土)　　第6会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間A)

シンポジウム004(薬物療法専門薬剤師認定委員会・薬物療法専門薬剤師研修小委員会)　9:30～11:30

薬物療法専門薬剤師の価値をいかに示すか－2040年の医療課題と実践・アウトカム－

オーガナイザー：樋口　則英（長崎みなとメディカルセンター）
八木　達也（浜松医科大学医学部附属病院）
座長：樋口　則英（長崎みなとメディカルセンター）
八木　達也（浜松医科大学医学部附属病院）

21-06-S004-1 社会に示せ、専門薬剤師の価値―アウトカムで証明する実践型スーパージェネラリストの役割―

○宮津　大輔
医療法人徳洲会福岡徳洲会病院薬剤部

21-06-S004-2 外来がん薬物療法における薬物療法専門薬剤師の価値―中規模病院における実践・人材育成・展望―

○山室　蕗子
熊本市立熊本市民病院

21-06-S004-3 PBPMによる業務効率化とエビデンス創出－薬物療法専門薬剤師の価値－

○片田　佳希
京都大学医学部附属病院薬剤部

21-06-S004-4 薬物療法専門薬剤師制度の社会認知度の向上に向けた課題

○平井　利典
東京科学大学病院薬剤部

シンポジウム013(出版小委員会・専門薬剤師認定試験小委員会)　13:20～15:20

薬物療法における薬剤師の視点・考え方　薬物療法に責任を持てる薬剤師になるために

オーガナイザー：矢野　良一（大阪医科薬科大学）
佐村　優（帝京平成大学薬剤部）
座長：前田　幹広（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部）
近藤　悠希（熊本大学大学院生命科学研究部臨床薬理学分野）

21-06-S013-1 薬物療法に責任を持つ薬剤師に求められる視点・考え方

○佐村　優
帝京平成大学薬学部

21-06-S013-2　副作用の見方・考え方

○北原　加奈之
医療法人鉄蕉会亀田総合病院

21-06-S013-3　糖尿病薬物療法の“組み立て方”を学ぶ―慢性期医療における薬剤師の判断力を磨く―

○堀井　剛史
武蔵野大学薬学部臨床薬学センター

21-06-S013-4　急性期の病態・薬物療法における薬剤師の視点・考え方、そして記録の在り方

○門村　将太
JCHO東京新宿メディカルセンター薬剤部

21-06-S013-5　薬物療法に責任を持てる薬剤師としての“専門薬剤師”になるための認定試験への活用

○平　大樹[1,2]、近藤　悠希[3]、佐村　優[4]
[1]京都大学大学院薬学研究科、[2]京都大学医学部附属病院薬剤部、[3]熊本大学大学院生命科学研究部、
[4]帝京平成大学薬学部

シンポジウム019　15:40～17:40

腎移植×併存疾患の課題を解決するための薬剤師の力

オーガナイザー：髙多　瞭治（金沢医科大学病院薬剤部薬剤部）
安田　知弘（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部）
座長：竹内　裕紀（東京医科大学病院薬剤部）
安田　知弘（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部）

21-06-S019-1　腎移植×併存疾患総論
-腎移植患者のさらなる長期生着をめざして-

○竹内　裕紀[1]、岩本　整[2]
[1]東京医科大学病院薬剤部、[2]東京医科大学八王子医療センター腎臓外科

21-06-S019-2　腎移植×糖尿病　― 糖尿病管理は血糖コントロールだけでよいのか？ ―

○辻本　高志
市立札幌病院薬剤部

21-06-S019-3　腎移植×感染症～腎移植患者の日和見感染症の課題を解決する薬剤師の力～

○高多　瞭治
金沢医科大学病院薬剤部

21-06-S019-4　腎移植×がん　-腎移植患者のがん化学療法の課題を解決する薬剤師の力-

○安田　知弘[1]、榎本　知沙[1]、木全　司[1]、望月　滉介[3]、三戸　統[3]、家永　彩乃[3]、大木　悠太郎[3]、姫野　智紀[3]、島本　侑樹[3]、長谷川　雄基[3]、二村　健太[3]、岡田　学[3]、平光　高久[3]、錦見　俊徳[2]、鳴海　俊治[3]、渡井　至彦[3]
[1]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部、
[2]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院泌尿器科、
[3]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院移植外科・移植内科

21-06-S019-5　腎移植×妊婦・授乳婦～安全を見極め、安心に寄り添う：腎移植患者の周産期を支える薬剤師の役割～

○長谷川　まゆみ、鈴木　千明、鈴木　宏和、坪井　久美、齋藤　健一
埼玉医科大学総合医療センター

11月21日(土)　第7会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間B）

シンポジウム005　9:30～11:30

がん医療における薬剤師業務の再設計：業務改善から多職種連携・教育へつなぐ実践モデル

オーガナイザー：小林　一男（公益財団法人がん研究会有明病院）
齋藤　佳敬（北海道科学大学薬学部）
座長：齋藤　佳敬（北海道科学大学薬学部）
梅原　健吾（北海道がんセンター薬剤部）

21-07-S005-1　AIやロボット活用を含む業務最適化：ハイボリュームセンターの実践
○阿部　誠也
医療法人鉄蕉会亀田総合病院

21-07-S005-2　がん治療を支える薬剤師業務の再設計：プロセス改善とチーム医療の実践
○小林　一男
公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部

21-07-S005-3　がん医療連携による患者支援の実際と2026年調剤報酬改定を踏まえた薬局薬剤師の育成
○上原　弥未
株式会社ユニスマイルユニスマイル薬局駒込病院前店

21-07-S005-4　外来化学療法における分割払い出し運用の標準化と教育的意義：新人薬剤師が担う再現可能な業務改善モデル
○眞壁　一志
がん研究会有明病院薬剤部

21-07-S005-5　がん医療の高度化に対応する薬学教育：2040年を見据えた人材育成モデル
○星　貴薫
北海道科学大学薬学部

シンポジウム014　13:20～15:20

つながる力が医療を変える！ DX時代の地域医療連携の最前線―情報共有が変えるケアの質と患者アウトカム―

オーガナイザー：山﨑　美保（独立行政法人労働者健康安全機構長崎労災病院薬剤部）
廣田　憲威（一般社団法人大阪ファルマプラン社会薬学研究所）
座長：山﨑　美保（独立行政法人労働者健康安全機構長崎労災病院薬剤部）
廣田　憲威（一般社団法人大阪ファルマプラン社会薬学研究所）

21-07-S014-1　あじさいネット＜長崎県地域医療連携ネットワーク＞が導く地域医療連携の進化と多職種協働の深化
○宮永　圭
長崎大学病院薬剤部

21-07-S014-2　医療DXが拓く地域薬局発の薬薬連携と多職種協働による臨床介入の新展開
○鈴木　智香子
あおかた調剤薬局

21-07-S014-3　在宅ケアにおける医療DXと薬剤師の役割について～あじさいネットやMSC（メディカルケアステーション）を使用した多職種連携について～
○佐田　悦子
アクア薬局矢上店

21-07-S014-4　訪問看護における情報共有の変遷と医療DXの役割　～医療DX時代における情報共有の進化が変えるケアの質と患者のアウトカム～

○黒田　敬子
彩りケアグループ合同会社訪問看護ステーション彩り小榊事業所

共催：一般社団法人日本医薬品安全性学会

シンポジウム020　15:40～17:40

いま電子処方箋の導入に必要な知識をアップデート ～基礎知識から先進的な取り組み事例について～

オーガナイザー：室井　延之（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部）
小玉　博一（多可赤十字病院薬剤部）
座長：室井　延之（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部）
上田　宏（市立伊丹病院薬剤部薬剤科）

21-07-S020-1　電子処方箋導入を契機とした病院全体の医療DX推進― 事務局長の立場から見た導入課題と実践的取り組み ―

○小枝　伸行
八尾市立病院事務局

21-07-S020-2　電子処方箋導入促進の取組と2030年に向けた展望

○式部　さあ里
厚生労働省政策統括官付医療情報連携担当参事官室

21-07-S020-3　電子処方箋とマイナンバー資格確認の導入～薬局の取組みと薬剤師の役割～

○石村　智加子
株式会社ホロンすずらん薬局グループ

21-07-S020-4　災害時における電子処方箋の有用性と将来展望

○小玉　博一
日本赤十字社多可赤十字病院薬剤部

21-07-S020-5　兵庫県病院薬剤師会による病院における電子処方箋導入を進めるための活動

○柴谷　直樹[1,5]、上田　宏[2,5]、鶴田　洋平[3,5]、小玉　博一[4,5]、室井　延之[1,5]
[1]神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部、[2]市立伊丹病院薬剤部薬剤科、[3]加古川中央市民病院薬剤部、[4]多可赤十字病院薬剤部、[5]兵庫県病院薬剤師会先進的薬剤業務特別委員会

11月21日(土)　第8会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間C）

シンポジウム006　9:30～11:30

臨床化学と医療薬学の融合が拓く個別化薬物療法の新地平 ～検査値の真意を読み解き、最適な投与設計へ繋ぐ

オーガナイザー：前川　正充（東北大学病院薬剤部）
城野　博史（熊本大学病院薬剤部）
座長：城野　博史（熊本大学病院薬剤部）
前川　正充（東北大学病院薬剤部）

21-08-S006-1　検査値を活用した個別化投与設計

○横田　隼人[1,2]
[1]秋田大学医学部附属病院薬剤部、[2]東北大学大学院薬学研究科ゲノム医療薬学分野

21-08-S006-2　TDMを起点としたファーマコメトリクス研究― 検査値から読み解く薬物動態変動と個別化投与設計 ―

○田中　遼大、伊東　弘樹
大分大学医学部附属病院薬剤部

21-08-S006-3　安全性バイオマーカーの探索と個別化安全対策

○齊藤　公亮
国立医薬品食品衛生研究所医薬安全学部

21-08-S006-4　リン脂質分析技術を基盤とした細胞膜リン脂質の挙動評価と脂質調節薬が及ぼす組成変動解析

○池田　義人
滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部

21-08-S006-5　臨床化学と医療薬学の融合に資するLC-MS/MS活用の新展開

○前川　正充[1,2,3,4,5]、公文代　将希[1]、瀬川　良佑[1]、眞野　成康[1,2,3]
[1]東北大学病院薬剤部、[2]東北大学大学院医学系研究科、[3]東北大学大学院薬学研究科、
[4]東北大学高等研究機構未来型医療創成センター、[5]大阪大学大学院理学研究科附属フォアフロント研究センター

共催：一般社団法人日本臨床化学会

シンポジウム015　13:20～15:20

2040年を展望する持続可能な医療を支える医薬品供給、購入のありかた

オーガナイザー：座間味　義人（岡山大学病院薬剤部）
矢野　貴久（島根大学医学部附属病院）
座長：槇田　崇志（岡山大学病院薬剤部）
陶山　登之（島根大学医学部附属病院薬剤部）

21-08-S015-1　医薬品の安定供給に貢献する地域フォーミュラリの意義

○小池　博文
横浜市立大学附属病院薬剤部

**21-08-S015-2　能登半島地震の経験から考える持続可能な医薬品供給
―平時と有事をつなぐ地域連携―**

○台蔵　剛士[1,2]
[1]石川県立中央病院薬剤部、[2]石川県病院薬剤師会災害対策委員会

**21-08-S015-3　県域を越えた医薬品共同調達と地域共同配送体制の構築
―持続可能な医薬品供給モデルの提示―**

○山下　博行
岡山大学病院

21-08-S015-4　大学病院間連携を核とした県域を越えた医薬品安定供給体制の構築　―地域フォーミュラリと共同調達への取り組み―

○陶山　登之
島根大学医学部附属病院

シンポジウム021　15:40〜17:40

PBPMを全国の当たり前にする5つの「突破口」―ハジメル・ツヅケル・患者にカンゲンする実践論―

オーガナイザー：川上　和宜（東京女子医科大学病院薬剤部）
原田　知彦（神奈川県立足柄上病院薬剤科）
座長：原田　知彦（神奈川県立足柄上病院薬剤科）
藤井　宏典（岐阜大学医学部附属病院薬剤部）

21-08-S021-1　なぜプロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）は“アタリマエ”にならないのか？
○川上　和宜
東京女子医科大学病院薬剤部

21-08-S021-2　医師はPBPMに何を期待し、何に躊躇しているのか　- 協働がハジマル現場と止まる現場の分岐点 -
○加藤　晃史
東京都立駒込病院臨床研究・治験センター

21-08-S021-3　どこでもハジメラレルPBPM―“いつもの確認”を業務再設計する―
○原田　知彦
神奈川県立足柄上病院薬剤科

21-08-S021-4　支持療法薬は誰が最適化するのか　― がん薬剤師外来×PBPMが生み出す“患者に届く”薬物治療 ―
○坂本　靖宜
横浜市立大学附属病院薬剤部

21-08-S021-5　PBPMは“属人化”を超えられるか ― がん悪液質をモデルにした汎用プロトコールと評価指標 ―
○桂　英之
小松市民病院薬剤科

21-08-S021-6　PBPMは何を変えたのか〜外来がん化学療法における安全管理と業務最適化の検証〜
○濟川　聡美
愛媛大学医学部附属病院薬剤部

11月21日（土）　第11会場（ホテル日航金沢　3F　孔雀の間C）

シンポジウム007　9:30〜11:30

治験のコストが変わる、薬剤部の役割が問われる－FMV・シングルIRB・DCT時代に薬剤師は何をすべきか－

オーガナイザー：老本　名津子（京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構臨床研究推進部）
五百蔵　武士（神戸大学医学部附属病院薬剤部）
座長：老本　名津子（京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構臨床研究推進部）
五百蔵　武士（神戸大学医学部附属病院薬剤部）
パネリスト：玉木　慎也（KKR札幌医療センター薬剤科）

21-11-S007-1　GCP省令改正・治験エコシステムの全体像 ― 制度はどこへ向かうのか
○福田　祐介
国立精神・神経医療研究センター薬剤部/臨床研究・治験推進室

21-11-S007-2　治験エコシステム導入に伴う制度改革と治験コスト構造の変化 ― 調査研究から見える薬剤部の戦略 ―
○近藤　直樹
国立がん研究センター東病院

21-11-S007-3 FMVで薬剤師の治験業務はどう評価されるか～タスクベースの費用算定がもたらすもの～

○黒田　智
岡山大学病院薬剤部／新医療研究開発センター

21-11-S007-4 シングルIRB原則化における実施医療機関のコストインパクト　－消える審査料の現実－

○有馬　秀樹
山口大学医学部附属病院臨床研究センター

21-11-S007-5 治験使用薬管理と分散型臨床試験 ～ 薬剤部の「特権と価値」はどこへ行くのか～

○森山　菜緒
帝京大学医学部附属病院臨床試験・治験統括センター

シンポジウム016　13:20～15:20

臨床薬剤師による臨床薬理学研究のすゝめ ～失敗から学ぶ、成功へのカギ～

オーガナイザー：前田　章光（愛知県がんセンター薬剤部）
池末　裕明（名古屋大学医学部附属病院薬剤部）
座長：前田　章光（愛知県がんセンター薬剤部）
池末　裕明（名古屋大学医学部附属病院薬剤部）

21-11-S016-1 臨床薬剤師の限界と研究機関との連携の重要性

○前田　章光
愛知県がんセンター薬剤部

21-11-S016-2 抗がん薬のPK/PD/PGx研究をいかに臨床へ還元するか

○山田　悠人
岐阜大学医学部附属病院薬剤部

21-11-S016-3 歴史ある研究分野で新しい価値を見つける― 結核研究からTDM、そしてAI研究へ ―

○堀田　康弘
名古屋市立大学大学院医学研究科臨床薬剤学分野

21-11-S016-4 臨床検体収集から得る学び：移植・感染領域の臨床薬理学研究を通して

○梅村　圭祐[1]、勝部　友理恵[1]、平　大樹[1,2]、中川　俊作[1]、寺田　智祐[1]
[1]京都大学医学部附属病院薬剤部、[2]京都大学大学院薬学研究科臨床薬学教育分野

21-11-S016-5 免疫チェックポイント阻害薬レジストリと歩み、学んだ研究のすゝめ

○松金　良祐
九州大学大学院薬学研究院臨床育薬学分野

シンポジウム022（JPHCS編集委員会）　15:40～17:40

国際誌投稿の意義とJPHCSが担う役割について

オーガナイザー：村木　優一（京都薬科大学）
城野　博史（熊本大学病院薬剤部）
座長：大山　要（長崎大学病院薬剤部）
中川　俊作（京都大学医学部附属病院薬剤部）

21-11-S022-1 国際誌への投稿から得た経験と繋がり

○岡本　明大
三重大学医学部附属病院薬剤部

21-11-S022-2　臨床現場からの国際誌投稿の意義：JPHCS誌への投稿経験から得られた成果とキャリアへの波及効果

○宇夛　裕基
金沢市議会議員

21-11-S022-3　「質の高い研究」は開始前に決まる：研究計画書と報告ガイダンスの活用

○吉廣　尚大
広島大学病院薬剤部

21-11-S022-4　査読対応で論文を仕上げる：投稿から掲載までの注意点

○土屋　雅美[1,2]
[1]慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座、[2]日本医療薬学会JPHCS編集委員会

21-11-S022-5　JPHCS編集の現状と今後の展望―編集委員長の視点から―

○池末　裕明
名古屋大学医学部附属病院薬剤部

11月21日(土)　　第13会場（金沢市アートホール　6F　ホール）

シンポジウム008　　9:30～11:30

2040年の医療を創る薬剤師の確保戦略 ― 多方面から紐解く人材確保と定着の基盤

オーガナイザー：大山　要（長崎大学病院薬剤部）
中村　克徳（琉球大学病院薬剤部）
座長：佐道　紳一（長崎みなとメディカルセンター薬剤部）
丸山　真理子（日本赤十字社長崎原爆病院薬剤部）

21-13-S008-1　当院における時間対効果・費用対効果に配慮した持続可能な人材確保の取り組み

○丸山　真理子[1]、川崎　法子[1]、井上　知哉[1]、原田　周平[2]、宮上　桐豪[1]、前田　愛香[1]、杉本　庸子[1]、藤田　靖之[1]、川原　和也[3]、岩松　伸洋[4]、佐道　紳一[5]、池田　能利子[1]、大山　要[6]
[1]日本赤十字社長崎原爆病院薬剤部、[2]日本赤十字社長崎原爆諫早病院薬剤部、
[3]独立行政法人地域医療機能推進機構諫早総合病院薬剤部、[4]社会医療法人長崎記念病院薬剤部、
[5]地方独立行政法人長崎市立病院機構長崎みなとメディカルセンター薬剤部、[6]長崎大学病院薬剤部

21-13-S008-2　薬剤師不足時代の人材確保戦略－採用・育成・定着の視点からー

○板垣　有紀
社会福祉法人恩賜財団済生会山形済生病院

21-13-S008-3　薬学生に“選ばれる病院”とは何かーマーケティング理論に基づく採用戦略―

○栁原　知夏
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院

21-13-S008-4　病院薬剤師の偏在・不足問題に対する客観的ベンチマークを用いた採用計画の立案

○組橋　由記[1]、木全　司[2]、三宅　知宏[3]、町田　充[4]、森　英樹[5]
[1]徳島赤十字病院薬剤部、[2]日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部、[3]伊勢赤十字病院薬剤部、
[4]浦河赤十字病院薬剤部、[5]岡山赤十字病院薬剤部

21-13-S008-5　地域の壁をどう乗り越えるか？ 薬剤師のニーズに合わせた、これからの人材確保の進め方

○後藤　浩太
エムスリーキャリア株式会社薬剤師就職支援Gr

21-13-S008-6　データ解析とフィールドワークで育む地域志向キャリア―公共データ分析と現場体験を融合した課題解決型薬学教育―

○牛尾　聡一郎[1]、鮎川　洋[2]、川満　啓司[1]、江川　孝[1]、三島　健一[2]
[1]福岡大学薬学部健康危機管理薬学、[2]福岡大学薬学部薬学教育学

シンポジウム017　13:20〜15:20

薬剤師のプロフェッショナル・アイデンティティを問う！〜将来必要になる議論を先取りしよう〜

オーガナイザー：細谷　治（日本赤十字社医療センター薬剤部）
有田　悦子（北里大学薬学部）
座長：細谷　治（日本赤十字社医療センター薬剤部）
有田　悦子（北里大学薬学部）

21-13-S017-1　「何ができるか」から「どうあるべきか」へ〜激変する臨床で問われる薬剤師のプロフェッショナル・アイデンティティ〜

○細谷　治
日本赤十字社医療センター薬剤部

21-13-S017-2　医療の非営利性と倫理―scienceploitationという問題を通じて考える

○一家　綱邦
国立がん研究センターがん対策研究所生命倫理・医事法研究部

21-13-S017-3　『いわゆる「健康食品」』は私たちの健康寿命延伸に寄与できるのか　―薬剤師が持つべき視点―

○和田　政裕
城西大学薬学部医療栄養学科

21-13-S017-4　プロフェッショナル・アイデンティティの基盤となる薬学倫理教育〜「知識の倫理」から「実践の倫理へ」〜

○有田　悦子
北里大学薬学部医療心理学部門

シンポジウム023　15:40〜17:40

働きがい改革の視点から考えるシニア薬剤師のセカンドキャリア

オーガナイザー：堀川　俊二（寺岡記念病院薬剤科）
荒川　隆之（長久堂野村病院薬剤科）
座長：荒川　隆之（長久堂野村病院薬剤科）
荒木　隆一（市立敦賀病院）

21-13-S023-1　「プラチナファーマシスト宣言」60代は、自分の未来を自分で整えるゴールデンタイム、シニア薬剤師の働きがい改革

○堀川　俊二
社会医療法人社団陽正会寺岡記念病院

21-13-S023-2　強みを生かし弱みを受け止め一薬剤師として自分らしく生きるセカンドキャリア

○西迫　多重
調剤薬局オオバ

21-13-S023-3　38年の臨床経験を力に：シニア薬剤師が開く多角的なセカンドキャリアと地域貢献病院・民間企業・フリーランスを通じた挑戦と展望

○右川　浩
株式会社メディカルアンサーズ

21-13-S023-4　生成AIがもたらすシニア薬剤師の「働きがい改革」ー楽しさを原動力としたキャリア再開発の形ー

○末松　文博
JASMA（日本ストレスマネジメント協会）

21-13-S023-5　経験を価値に変える病院薬剤師のセカンドキャリアー―キャリア形成論と医療経営の視点から―

○流石　学
株式会社メデュアクト

11月21日（土）　第14会場（ホテル金沢　4F　エメラルドA）

シンポジウム009　9:30～11:30

「飲めましたか？」のその先へ ～服薬アドヒアランスの臨床、研究、教育学の融合～

オーガナイザー：谷川　大夢（公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部）
小澤　有輝（東京女子医科大学病院薬剤部）
座長：谷川　大夢（公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部）
小澤　有輝（東京女子医科大学病院薬剤部）

21-14-S009-1　慢性疾患患者における服薬アドヒアランス支援の再考 ― 病気認知・共感性・患者エンパワーメントの視点から ―

○宮崎　元康
福岡大学筑紫病院薬剤部

21-14-S009-2　緩和ケア領域の薬剤師外来から見たアドヒアランス　ー服薬管理から患者理解へ ー

○山田　正実
大阪府済生会野江病院薬剤科

21-14-S009-3　服薬アドヒアランスのガイドライン NICE CG76日本語版から考える患者中心の服薬支援

○藤宮　龍祥
東京科学大学病院薬剤部

21-14-S009-4　リアルタイムアドヒアランスモニタリグシステムを用いた経口薬の臨床研究の実践とアドヒアランス向上への取り組み

○川上　和宜
東京女子医科大学病院薬剤部

21-14-S009-5　服薬アドヒアランスを超えて―患者エンパワーメントとコンコーダンスによる服薬支援

○岡田　浩
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系予防医療学分野

シンポジウム503　13:20～14:50

超高齢社会におけるがん化学療法で留意すべき新たな視点

オーガナイザー：市村　丈典（東京薬科大学薬学部）
小林　一男（がん研究会有明病院薬剤部）
座長：内山　将伸（福岡大学薬学部腫瘍・感染症薬学研究室）
鈴木　賢一（東京薬科大学薬学部臨床薬理学教室）

21-14-S503-1　超高齢社会におけるがん化学療法の諸問題を再考する

○市村　丈典
東京薬科大学薬学部臨床薬学大講座医薬品情報学分野

21-14-S503-2　高齢がん患者に対するがん化学療法の安全管理―高齢者機能評価とその後の対応―

○内山　将伸
福岡大学薬学部腫瘍・感染症薬学研究室

21-14-S503-3　高齢がん患者の化学療法継続支援―がん悪液質の集学的管理における薬剤師の役割―

○三村　佳久
名古屋市立大学大学院医学研究科臨床薬剤学

21-14-S503-4　超高齢社会のICI治療におけるがん悪液質の影響

○鈴木　賢一
東京薬科大学臨床薬理学教室

シンポジウム508　15:00～16:30

2040年のがん医療を拓く薬学研究：基礎と臨床の融合・循環モデルの構築

オーガナイザー：松本　奈都美（昭和医科大学薬学部）
志村　裕介（金沢大学附属病院薬剤部）
座長：松本　奈都美（昭和医科大学薬学部）
志村　裕介（金沢大学附属病院薬剤部）

21-14-S508-1　日常業務の「なぜ？」をクリニカルクエスチョンへ：臨床と基礎研究を繋ぐ第一歩

○志村　裕介
金沢大学附属病院薬剤部

21-14-S508-2　高齢がん患者の“困った”をエビデンスへつなぐ臨床疫学的アプローチ

○市村　丈典[1,2]
[1]東京薬科大学薬学部臨床薬学大講座医薬品情報学分野、[2]昭和医科大学臨床疫学研究所

21-14-S508-3　臨床を科学する：臨床とアカデミアを繋ぐ臨床薬理学的アプローチ

○松本　奈都美
昭和医科大学薬学部

21-14-S508-4　患者検体から紐解くがん進展制御機構と新規治療戦略の提案

○磯崎　英子
金沢大学がん進展制御研究所

シンポジウム513　16:40～18:10

がん薬物療法の費用対効果を考える～持続可能ながん医療のために薬剤師ができること～

オーガナイザー：近藤　有（JA愛知厚生連豊田厚生病院薬剤部）
池谷　怜（国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター）
座長：近藤　有（JA愛知厚生連豊田厚生病院薬剤部）
池谷　怜（国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター）

21-14-S513-1　薬剤経済学の基礎と政策応用、そして臨床での活用

○池谷　怜
国立保健医療科学院保健医療経済評価研究センター

21-14-S513-2　リアルワールドデータを用いた支持療法の費用対効果評価-制吐療法から考える臨床現場における価値の可視化-

○稲野　寛
北里大学病院薬剤部

21-14-S513-3　臨床現場における医療経済的ジレンマ　―病院経営と持続可能ながん医療の狭間で薬剤師は何を考えるのか―

○宇佐美　英績
大垣市民病院薬剤部

21-14-S513-4　膵がん薬物療法の費用対効果から見た個別最適化への貢献:アカデミアの視点から

○赤沢　学
明治薬科大学薬学部

11月21日(土)　　第15会場（ホテル金沢　4F　エメラルドB)

シンポジウム010　　9:30～11:30

基礎と臨床の両面から捉える病態時における薬物動態の変動

オーガナイザー：三浦　基靖（静岡県立大学薬学部）
工藤　敏之（武蔵野大学薬学部）
座長：三浦　基靖（静岡県立大学薬学部）
工藤　敏行（武蔵野大学薬学部）

21-15-S010-1　抗がん薬の体内動態に及ぼす肝腎機能低下の影響と考え方

○加藤　将夫
金沢大学薬学系分子薬物治療学研究室

21-15-S010-2　治療用タンパク質によるIL－6変動を介した薬物相互作用とPBPKモデル評価

○佐藤　正延[1]、梅原　賢一[2]
[1]日本ベーリンガーインゲルハイム薬物動態安全性研究部、[2]エフ・ホフマン・ラ・ロシュロシュ・イノベーションセンターロシュ・ファーマシューティカル・リサーチ・アンド・アーリー・ディベロップメントファーマシューティカル・サイエンシズ

21-15-S010-3　病態時における低分子医薬品や抗体医薬品の薬物動態の個人差

○内藤　隆文
信州大学医学部附属病院薬剤部

21-15-S010-4　がん悪液質の病態時におけるオピオイド鎮痛薬の薬物動態変動とその臨床的意義

○佐藤　聖
浜松医科大学医学部附属病院薬剤部

共催：公益財団法人日本薬剤学会　薬物相互作用・個別化医療フォーカスグループ

シンポジウム504　　13:20～14:50

GenotypeとPhenotypeの乖離に挑む:動的病態評価に基づく精密薬物療法の深化

オーガナイザー：平井　啓太（和歌山県立医科大学薬学部）
座長：鈴木　陽介（明治薬科大学）
平井　啓太（和歌山県立医科大学薬学部）

21-15-S504-1　Pharmacogenomics検査が照らす精密薬物療法の新展開

○勝部　友理恵[1]、片田　佳希[1]、平　大樹[1,2]、寺田　智祐[1]
[1]京都大学医学部附属病院薬剤部、[2]京都大学大学院薬学研究科

21-15-S504-2　肝代謝:病態がシトクロムP450活性に与える影響と内因性バイオマーカーを活用したその定量的予測

○小田　絢子
明治薬科大学薬剤情報解析学

21-15-S504-3　腎排泄：ARCを中心とした動的Phenotypeの評価と投与設計

○内匠　幸恵、伊東　弘樹
大分大学医学部附属病院薬剤部

21-15-S504-4　薬物吸収はなぜ変わるのか？ －最先端イメージングで探る吸収変動の規定因子－

○白坂　善之
昭和薬科大学薬学部薬剤学研究室

21-15-S504-5　薬力学：薬物動態だけでは説明できない、病態で変わる薬剤感受性をどう捉えるか

○平井　啓太
和歌山県立医科大学薬学部

シンポジウム509　15:00～16:30

地域健康課題に対する臨床系教員の新たな価値―教育と研究の共創

オーガナイザー：菅　幸生（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
嶋田　努（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
座長：菅　幸生（金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学研究室）
嶋田　努（金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学研究室）

21-15-S509-1　地域における医療提供体制の整備に向けて

○中　雄一郎
厚生労働省医政局地域医療計画課

21-15-S509-2　健康サポート薬局による口腔の健康イベントは住民の歯科受診を促すか？～アカデミアと地域薬局の多施設共同無作為化比較試験～

○山浦　克典[1,2]、前瀬　翰[1,2]
[1]慶應義塾大学薬学部社会薬学部門、[2]慶應義塾大学薬学部附属薬局

21-15-S509-3　教育と研究を基盤とした地域健康支援モデルの構築－石川県野々市市における薬学×自治体連携－

○石田　奈津子、窪野　将也
金沢大学医薬保健研究域薬学系

シンポジウム514　16:40～18:10

PMDAが作成する「審査報告書」活用してますか？～様々な立場から考える審査報告書の利活用と課題・将来像～

オーガナイザー：若林　進（杏林大学医学部付属病院薬剤部）
座長：若林　進（杏林大学医学部付属病院薬剤部）
柏谷　祐司（日本製薬工業協会薬事委員会）

21-15-S514-1　PMDAが作成する「審査報告書」活用してますか？

○若林　進[1,2]
[1]杏林大学医学部付属病院薬剤部、[2]東京医療保健大学

21-15-S514-2　製薬企業は審査報告書に何を求めるのか　―医薬品開発の視点から考える価値と役割―

○中野　恭嗣
日本製薬工業協会薬事委員会

21-15-S514-3　承認審査・薬価算定の立場からみた審査報告書の利活用と課題

○間宮　弘晃
立命館大学薬学部

21-15-S514-4　医療現場における審査報告書の利活用と課題

○荒　義昭
国立病院機構災害医療センター

21-15-S514-5　製薬企業における審査報告書の利活用実態と課題 ―製薬協アンケート調査から―

○一原　さやか[1,2]
[1]日本製薬工業協会薬事委員会、[2]ファイザーR&D合同会社

11月21日(土)　　第16会場（ホテル金沢　5F　アプローズ）

シンポジウム011　　9:30～11:30

症例ディスカッションで共創する難治性がん疼痛マネジメント- 働く世代の生活を支える実装型医療薬学

オーガナイザー：金子　健（慶應義塾大学病院薬剤部・緩和ケアセンター）
座長：金子　健（慶應義塾大学病院薬剤部・緩和ケアセンター）
伊東　俊雅（東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部）
総括解説・薬剤師へのメッセージ：的場　元弘（東京西徳洲会病院）

21-16-S011-1　症例ディスカッションで共創する難治性がん疼痛マネジメント－働く世代の生活を支える実装型医療薬学（解説・Adviser）

○城山　亮輔[1]、伊東　俊雅[2]、周治　由香里[2]、岸田　悦子[3]、宮里　明芽[4]、熱海　幸恵[5]
[1]東京大学医学部附属病院薬剤部、[2]東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部、
[3]日本医科大学付属病院薬剤部、[4]東京医科大学病院薬剤部、[5]医療法人社団永生会みなみ野病院薬剤科

シンポジウム505　　13:20～14:50

2040年を見据えたがんサバイバーシップ支援 ―ライフステージに寄り添う薬剤師の新たな役割―

オーガナイザー：小室　雅人（国立健康危機管理研究機構医療情報基盤センター）
米村　雅人（国立がん研究センター東病院）
座長：小室　雅人（国立健康危機管理研究機構医療情報基盤センター）
網野　一真（諏訪赤十字病院薬剤部）

21-16-S505-1　2040年を見据えたがんサバイバーシップ支援―多職種連携の現在地と薬剤師への期待―

○多田　雄真[1,2]
[1]大阪国際がんセンター血液内科、[2]血液在宅クリニック大阪

21-16-S505-2　若年がん経験者の長期的な健康課題に薬剤師はどう向き合うか：長期フォローアップへの関わり

○日置　三紀
滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部

21-16-S505-3　現場の"困った"を"できる！"に変える―薬剤師がつくる医療者向け妊孕性温存支援資材―

○島貫　裕実子[1,2]
[1]国立健康機器管理研究機構国立国際医療センターバイオバンク科診療科、
[2]国立健康機器管理研究機構国立国際医療センターがん総合診療センター

21-16-S505-4　当事者と医療者の視点から考えるがんサバイバー支援

○加藤　美和
国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院薬剤部

シンポジウム510　15:00～16:30

がん患者の痛み治療における最新トレンドとイノベーション：実臨床における位置づけ

オーガナイザー：宮本　朋佳（兵庫医科大学薬学部）
川畑　篤史（近畿大学薬学部）
座長：宮本　朋佳（兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野）
川畑　篤史（近畿大学薬学部病態薬理学研究室）

21-16-S510-1　がん患者に生じる痛みの最新治療トレンドと今後の方向性

○中川　貴之
和歌山県立医科大学薬学部病院薬学

21-16-S510-2　がん疼痛治療のパラダイムシフト－多様化する薬物療法と2040年を見据えた薬剤師のシームレスな連携－

○金子　健[1,2]
[1]慶應義塾大学病院薬剤部、[2]慶應義塾大学病院緩和ケアセンター

21-16-S510-3　がん化学療法の副作用に関する臨床・基礎融合研究による新知見

○宮本　朋佳
兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野

21-16-S510-4　医療ビッグデータを用いた化学療法誘発性末梢神経障害解析の有用性と限界

○相澤　風花[1,2]、八木　健太[2,3]、新村　貴博[1,2]、川田　敬[2,3]、石澤　啓介[1,2,4,5]
[1]徳島大学病院臨床研究推進部、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野、
[3]島根大学医学部附属病院薬剤部、[4]徳島大学病院薬剤部、[5]徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療薬学分野

21-16-S510-5　化学療法誘発性末梢神経障害の発現メカニズムと予防イノベーション

○川畑　篤史
近畿大学薬学部病態薬理学研究室

シンポジウム515　16:40～18:10

ピットフォールから学ぶがん化学療法と緩和ケア～違和感のその先へ進む第一歩～

オーガナイザー：髙田　知世（国立病院機構栃木医療センター薬剤部）
太田　貴洋（厚生労働省医薬局医薬安全対策課）
座長：太田　貴洋（厚生労働省医薬局医薬安全対策課）
髙田　知世（国立病院機構栃木医療センター薬剤部）

21-16-S515-1　有害事象らしく見える症状に潜むピットフォール～違和感を起点とした薬剤師の向き合い方を考える～

○髙田　知世
国立病院機構栃木医療センター薬剤部

21-16-S515-2　抗がん薬の副作用発現時のピットフォール　～薬学的視点から違和感を捉える～

○小澤　有輝
東京女子医科大学病院薬剤部

21-16-S515-3　外来がん薬物療法における保険薬局でのピットフォール　～処方箋の「外」と「裏」を見抜く～

○中村　俊貴
あけぼのファーマシーグループあけぼの薬局

21-16-S515-4　緩和薬物療法におけるピットフォール～オピオイドを中心に～

○高野　陽平
砂川市立病院薬剤部

11月22日(日)　　第1会場（石川県立音楽堂　2F　コンサートホール）

特別講演1　10:30〜11:30

座長：崔　吉道（金沢大学附属病院薬剤部）

SL1　**大学発ベンチャーキャピタルの挑戦と意義**

○松本　邦夫
金沢大学

会頭講演　13:20〜14:20

日本医療薬学会の将来ビジョンと2026-2027年度の運営方針

座長：武田　泰生（一般社団法人日本病院薬剤師会会長）

PL　**日本医療薬学会の将来ビジョンと2026-2027年度の運営方針**

○崔　吉道
一般社団法人日本医療薬学会会頭／金沢大学附属病院

特別講演2　14:20〜15:20

座長：崔　吉道（一般社団法人日本医療薬学会会頭／金沢大学附属病院）

SL2　**薬剤師が医療の未来を動かす －2040年の社会課題に挑む学術と実践の統合－**

○武田　泰生
一般社団法人日本病院薬剤師会会長

年会企画シンポジウム4　15:40〜17:40

2040年の在宅医療を支える薬剤師の新たな挑戦〜病院・薬局・多職種が創る地域連携モデル〜

オーガナイザー：川上　貴裕（金沢大学附属病院薬剤部）
座長：笹山　潔（浅ノ川総合病院薬剤部）
丸一　泰雅（タイガー薬局）

YPS4-1　**2040年を見据えた在宅医療政策と薬剤師への期待(薬剤師はどこに向かうべきなのか)**

○安川　孝志
厚生労働省

YPS4-2　**入院から在宅まで患者を支える病院薬剤師の新たな役割 〜在宅移行後の継続的薬物療法支援と薬局薬剤師との連携〜**

○笹山　潔[1]、押野谷　実[1]、田中　智裕[1]、居林　優輝[1]、重松　薫[1]、杉山　雄紀[2,3]、石川　和宏[2]
[1]医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院薬剤部、[2]北陸大学薬学部実践実学系、[3]山形大学医学部附属病院薬剤部

YPS4-3　**在宅協力薬局が支える地域の在宅医療体制〜薬局間連携による在宅対応力の向上を目指して〜**

○丸一　泰雅
タイガープライム株式会社タイガー薬局

YPS4-4　**持続可能な在宅医療の構築に向けた多職種連携　医師と薬剤師が真の協力者となるために**

○加藤　洋平
メディカルらいふクリニック

YPS4-5 2040年を見据えた訪問看護師と薬剤師の多職種連携〜地域でつなぐ安心の薬物療法〜

○浅瀬　季予子
訪問看護リハビリステーションOHANA

11月22日(日) **第2会場（石川県立音楽堂　2F　邦楽ホール）**

シンポジウム024 9:30〜11:30

Complex case カンファレンス ―複雑な症例の薬物療法をプロフェッショナルな薬剤師と一緒に考えてみよう

オーガナイザー：木村　丈司（鳥取大学医学部附属病院薬剤部／神戸大学医学部附属病院薬剤部）
鈴木　大介（JA愛知厚生連海南病院薬剤部）
座長：木村　丈司（鳥取大学医学部附属病院薬剤部／神戸大学医学部附属病院薬剤部）
鈴木　大介（JA愛知厚生連海南病院薬剤部）

22-02-S024-1 がん緩和ケア×薬物動態変化の症例について考えてみよう

○高野　陽平[1]、岡本　明大[2]、阿部　史誉[3]
[1]砂川市立病院薬剤部、[2]三重大学医学部附属病院薬剤部、[3]市立大津市民病院薬剤部

22-02-S024-2 循環器疾患×移行期ケアの症例について考えてみよう

○野田　学[1]、神田　佳典[2]、木下　照常[3]
[1]独立行政法人地域医療機能推進機構若狭高浜病院薬剤部、[2]ウエルシア薬局株式会社調剤運営本部在宅推進部、[3]医療法人豊田会刈谷豊田総合病院薬剤部

シンポジウム035 13:20〜15:20

精神科領域の見逃せない問題を考える〜様々な場面における新たな取り組み〜

オーガナイザー：渡邊　真知子（東京大学薬学部、鈴木慈光病院薬局）
五味　和彦（長野県立こころの医療センター駒ヶ根薬剤部）
座長：渡邊　真知子（東京大学薬学部、鈴木慈光病院薬局）
山田　清文（名古屋大学、藤田医科大学精神・神経病態解明センター）

22-02-S035-1 抗精神病薬多剤大量の処方適正化〜統計士の知識を活かす〜

○加藤　剛
所沢慈光病院薬剤部

22-02-S035-2 臨床検査値を通して向精神薬使用中の患者へ薬剤師ができる薬学的マネジメントの実践

○渡部　和幸
医療法人鉄蕉会亀田総合病院薬剤部

22-02-S035-3 認知症を中心とした高齢者精神疾患における薬物療法と剤形特性を踏まえた臨床的意義

○五味　和彦
長野県立こころの医療センター駒ヶ根薬剤部

22-02-S035-4 小児の精神疾患の現状と薬学的ケアの課題―ADHD薬物療法を中心に―

○川名　三知代
帝京大学薬学部社会薬学研究室

22-02-S035-5 精神科薬物療法をどのように学ぶか？―精神科病院での研修の取り組み―

○桑原　秀徳
医療法人せのがわ瀬野川病院

共催：一般社団法人日本精神薬学会

教育講演3　15:40〜16:30

座長：石垣　靖人（金沢医科大学病院ゲノム医療センター）

EL3　**がんの抗体医薬品の最新情報**

○矢野　聖二
金沢大学医薬保健研究域医学系呼吸器内科学

教育講演4　16:50〜17:40

座長：金田　勝幸（金沢大学医薬保健研究域薬学系）

EL4　**重症患者を診る集中治療医が話す急性薬物中毒の話**

○谷口　巧
金沢大学附属病院集中治療部

11月22日(日)　第3会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間(西・中)）

シンポジウム025　9:30〜11:30

減薬の判断が難しい領域をどう見極めるか：医師と薬剤師が語るポリファーマシー最適化

オーガナイザー：古俵　孝明（彦根市立病院薬剤部）
河崎　尚史（大阪公立大学医学部附属病院薬剤部）
座長：河崎　尚史（大阪公立大学医学部附属病院薬剤部）
古俵　孝明（彦根市立病院薬剤部）

22-03-S025-1　**ポリファーマシー総論(多剤併用の現状、減薬の必要性、難しさ)**

○古俵　孝明
彦根市立病院薬剤部

22-03-S025-2　**医師の立場から考えるポリファーマシー対策**

○宮澤　豪
みやざわ内科クリニック

22-03-S025-3　**多剤併用患者における向精神薬の減量・減薬の考え方**

○肥田　裕丈[1,2]、鷲野　友亮[1]、加藤　善章[1]
[1]名古屋大学医学部附属病院薬剤部、[2]名城大学薬学部病態解析学I

22-03-S025-4　**糖尿病をもつ高齢者の減薬について考えてみよう**

○河崎　尚史
大阪公立大学医学部附属病院薬剤部

22-03-S025-5　**量と質のバランスを考えた循環器領域のポリファーマシー最適化**

○林　太祐
日本医科大学多摩永山病院薬剤部

協賛：一般社団法人日本老年薬学会

シンポジウム036 **13:20～15:20**

ポリファーマシー対策と情報連携による医療の質向上 ― 病院・薬局・地域をつなぐ医療薬学の実践と融合 ―

オーガナイザー：篠永　浩（三豊総合病院薬剤部）
中道　真理子（原土井病院薬剤部）
座長：篠永　浩（三豊総合病院薬剤部）
武藤　浩司（新潟市民病院薬剤部）

22-03-S036-1 5Ms・CGAに基づくポリファーマシー対策

○竹屋　泰
大阪大学医学部保健学科

22-03-S036-2 急性期病院におけるポリファーマシー対策の進め方～生活機能情報を活用した処方適正化の実践と情報収集体制の構築～

○陶山　泰治郎
三豊総合病院薬剤部

22-03-S036-3 精神科病院での処方最適化に向けた実践と地域連携の展開

○定岡　邦夫
特定医療法人生仁会須田病院

22-03-S036-4 薬薬連携・地域連携の新たな一手 -入院から在宅へのシームレスな薬物療法の提供-

○東　敬一朗、押野谷　実、居林　優輝、田中　智裕、重松　薫、笹山　潔
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院薬剤部

22-03-S036-5 生活の場におけるポリファーマシー対策：薬局起点のスクリーニングと双方向性情報連携

○神保　美紗子
株式会社スギ薬局人財開発部DI課

11月22日(日) 第4会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間(東)）

シンポジウム026 **9:30～11:30**

薬剤師に求められる認知症医療の理解―病態生理・治療・社会資源活用―

オーガナイザー：池田　里江子（ふれあい薬局飯能店）
出川　えりか（埼玉精神神経センター薬剤部）
座長：松尾　裕彰（広島大学病院薬剤部）
赤下　学（金沢大学附属病院薬剤部）

22-04-S026-1 認知症の病態と薬物療法ー薬剤師の役割ー

○溝口　博之[1]、堀田　彰悟[1]、山田　清文[2]
[1]名古屋大学医学部附属病院薬剤部、[2]藤田医科大学

22-04-S026-2 広がる認知症治療の選択肢ー当院での使用経験からの考察ー

○出川　えりか
埼玉精神神経センター薬剤部

22-04-S026-3 地域資源としての薬局の役割

○池田　里江子
ふれあい薬局飯能店

22-04-S026-4　介護保険法施行から四半世紀、認知症医療における薬学の役割を考える

○土井　信幸
高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室

22-04-S026-5　薬剤服用歴情報を活用した抗コリン薬の認知症発症リスク解析

○黄倉　崇
帝京大学薬学部臨床薬学講座製剤学研究室

共催：一般社団法人日本精神薬学会

シンポジウム037　13:20〜15:20

嚥下障害×高齢者の個別化医療

オーガナイザー：柏倉　康治（帝京大学薬学部薬学教育推進センター臨床実習ユニット）
萬谷　摩美子（愛和病院薬剤部）
座長：柏倉　康治（帝京大学薬学部薬学教育推進センター臨床実習ユニット）
萬谷　摩美子（愛和病院薬剤部）

22-04-S037-1　歯科医師の視点からみた摂食嚥下障害の現状と多職種連携への課題

○伊原　良明
昭和医科大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能リハビリテーション医学部門

22-04-S037-2　地域薬局薬剤師は見た！―在宅嚥下困難患者の実態―

○鈴木　寛
株式会社やまうち薬局

22-04-S037-3　嚥下機能低下患者に対する病院薬剤師の役割 ― がん・緩和薬物療法における実践と課題 ―

○宮崎　雅之
名古屋大学医学部附属病院薬剤部

22-04-S037-4　進行がん患者のせん妄症状に対する院内製剤の工夫と有効性について

○萬谷　摩美子
医療法人愛和会愛和病院

22-04-S037-5　嚥下困難患者への製剤学的アプローチと個別化製剤の展望

○原田　努
明治薬科大学生命創薬科学科CMC・製剤工学

11月22日(日)　第5会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　瑞雲）

シンポジウム027　9:30〜11:30

周術期薬学の未来図：標準化×実装科学で広がる薬剤師介入の可能性

オーガナイザー：奥津　雄人（日本赤十字社医療センター薬剤部）
榊原　諒子（名古屋市立大学病院薬剤部）
座長：舟越　良寛（医療法人鉄蕉会亀田総合病院薬剤部）
柴田　ゆうか（日本大学薬学部）

22-05-S027-1　周術期の薬剤師×周術期薬剤管理のリアルと可能性

○奥津　雄人
日本赤十字社医療センター薬剤部

22-05-S027-2　周術期の薬剤師×術後疼痛管理チームでの役割と挑戦

○木村　円
金沢大学附属病院薬剤部

22-05-S027-3　周術期の薬剤師×人材育成でつなぐ病棟・手術室連携

○寺口　徹
医療法人鉄蕉会亀田総合病院薬剤部

22-05-S027-4　周術期の薬剤師×研究の実践と知見

○栗崎　貴啓
社会医療法人潤心会熊本セントラル病院薬剤科

22-05-S027-5　周術期の薬剤師×次世代を育てる学生教育

○榊原　諒子
名古屋市立大学病院

シンポジウム516　13:20〜14:50

Sepsis chainとして捉え直す敗血症診療 ― 急性期から慢性期までの連携と未来への連綿 ―

オーガナイザー：柴田　啓智（済生会熊本病院薬剤部）
吉廣　尚大（広島大学病院薬剤部）
座長：入江　利行（小倉記念病院薬剤部）
高橋　佳子（兵庫医科大学病院薬剤部）

22-05-S516-1　敗血症重症患者を診る集中治療医からの薬剤師へのお願い

○谷口　巧
金沢大学附属病院集中治療部

22-05-S516-2　初療と超急性期の敗血症診療における薬剤師の現状と課題

○安藝　敬生
小倉記念病院薬剤部

22-05-S516-3　敗血症の急性期から慢性期への連携-移行期の薬学的課題と敗血症後ケアへの展望-

○鈴木　俊一郎
東京ベイ・浦安市川医療センター薬剤室

22-05-S516-4　Sepsis chainにつながる院内システム―敗血症診療に携わる薬剤師に求められる新たな視点―

○川口　博資、中村　安孝
大阪公立大学医学部附属病院薬剤部

22-05-S516-5　薬局薬剤師に対する敗血症早期認識と抗菌薬適正使用教育：セルフメディケーション支援におけるSepsis Chain導入の提案

○柴田　啓智
済生会熊本病院薬剤部

共催：一般社団法人日本集中治療医学会

シンポジウム520　15:00〜16:30

超高齢社会に対応する抗菌薬適正使用支援体制のレジリエンス強化―若手薬剤師の異分野融合研究と新展開－

オーガナイザー：山田　智之（大阪医科薬科大学病院薬剤部）
　　杤　秀樹（みなとファーマシー）
座長：山田　智之（大阪医科薬科大学病院薬剤部）
　　尾田　一貴（熊本大学病院薬剤部）

22-05-S520-1　超高齢社会における地域薬局の現状と抗菌薬適正使用支援
○杤　秀樹
みなとファーマシー

22-05-S520-2　超高齢化社会と進む細菌の耐性化 ― 本当の意味での抗菌薬適正使用を考える
○竹内　萌
聖マリアンナ医科大学病院薬剤部

22-05-S520-3　医療の質とantimicrobial stewardshipのつながりからAST業務のデザインを考える
○榎本　貴一
練馬光が丘病院薬剤室

22-05-S520-4　属人的ASから自律分散型体制への転換
○下原　朋美
社会医療法人寿量会熊本機能病院

22-05-S520-5　持続可能な抗菌薬適正使用支援体制を支える薬剤師学習用アプリケーションの開発と活用
○木村　郁哉
株式会社Medswell

22-05-S520-6　超高齢者の感染症治療におけるエビデンスの空白とインフォマティクスの役割
○榎屋　友幸
鈴鹿医療科学大学薬学部薬学科

共催：薬剤師学術能力開発研究会

シンポジウム524　16:40〜18:10

抗菌薬・抗真菌薬に関するTDMの最新エビデンスと今後の展望－TDM対象薬剤拡大への学術的検証－

オーガナイザー：松元　一明（慶應義塾大学薬学部）
　　眞中　章弘（厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部）
座長：松元　一明（慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座）
　　眞中　章弘（厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部）

22-05-S524-1　血液毒性を軽減するために必要なリネゾリドのTDM
○松元　一明
慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座

22-05-S524-2　ダプトマイシンは高用量投与が推奨されているが、本当にTDMは不要か？
○高田　啓介[1]、佐村　優[1,2]
[1]医療法人社団緑成会横浜総合病院薬剤部、[2]帝京平成大学薬学部薬学臨床教育研究センター

22-05-S524-3　TDMが必要なアゾール系抗真菌薬とは？ -入院・外来での必要性も考慮し-
○浜田　幸宏
高知大学医学部附属病院薬剤部

22-05-S524-4　集中治療領域におけるβ-ラクタム系抗菌薬のTDMの臨床的価値
～最新エビデンスから考える個別化投与設計の意義～

○石郷　友之
札幌医科大学附属病院薬剤部

22-05-S524-5　診療報酬改定に至るまでのロードマップ　－診療報酬と制度の関係－

○眞中　章弘
厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部

11月22日(日)　　第6会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間A)

シンポジウム028　　9:30～11:30

参加型！副作用報告から始まる安全の連鎖　「安全性情報の循環エコシステム」の実現に向けて

オーガナイザー：太田　美紀（国立医薬品食品衛生研究所（元医薬品医療機器総合機構安全性情報・企画管理部））
竹本　信也（日本製薬工業協会医薬品評価委員会PV/C専門ユニット（中外製薬株式会社））
座長：太田　美紀（国立医薬品食品衛生研究所（元医薬品医療機器総合機構安全性情報・企画管理部））
竹本　信也（日本製薬工業協会医薬品評価委員会PV/C専門ユニット（中外製薬株式会社））

22-06-S028-1　安全性情報のエコシステム（行政の視点より）

○松永　雄亮
独立行政法人医薬品医療機器機構安全性情報・企画管理部

22-06-S028-2　次世代の安全性情報の収集と提供に向けて　―製薬業界の最新事例より―

○竹本　信也
日本製薬工業協会医薬品評価委員会PV/C専門ユニット（中外製薬株式会社）

22-06-S028-3　地域医療連携で支えるがん薬物療法の安全性管理

○木本　真司
竹田綜合病院

22-06-S028-4　リアルワールドデータを用いた薬剤疫学調査・研究

○岩上　将夫
筑波大学医学医療系社会医学グループ

シンポジウム038（2025年度医療薬学学術第2小委員会企画）　　13:20～15:20

2025年度医療薬学学術第2小委員会：市販後安全性監視における不均衡分析と発症時間解析の課題と展望

オーガナイザー：野口　義紘（岐阜薬科大学病院薬学研究室）
植沢　芳広（明治薬科大学薬学部医療分子解析学研究室）
座長：横山　聡（近畿大学薬学部個別化薬物療法学分野）
植沢　芳広（明治薬科大学薬学部医療分子解析学研究室）

22-06-S038-1　不均衡分析の進歩と課題：市販後安全性評価のための方法論

○野口　義紘[1]、増田　陸人[1]、杉本　智哉[2]、横山　聡[3]、舘　知也[4]、吉村　知哲[1]
[1]岐阜薬科大学病院薬学研究室、[2]トヨタ記念病院薬剤科、[3]近畿大学薬学部個別化薬物療法学分野、
[4]名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学分野

22-06-S038-2　日本医薬品安全性学会副作用データベース解析部会における自発報告データベース解析の適正化に向けた活動

○菅　裕亮[1,2,3,4]
[1]株式会社なの花北海道なの花薬局若草店、[2]株式会社メディカルシステムネットワーク学術部、
[3]日本医薬品安全性学会副作用データベース部会、[4]明治薬科大学医療分子解析学研究室

22-06-S038-3　自発報告データベースにおける時間解析の適切な活用に向けて― 理論的背景と実践上の課題 ―

○横山　聡[1]、伊野　陽子[2]、舘　知也[3]、吉村　知哲[4]、野口　義紘[4]
[1]近畿大学薬学部個別化薬物療法学分野、[2]岐阜薬科大学健康医療薬学研究室、
[3]名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学分野、[4]岐阜薬科大学病院薬学研究室

22-06-S038-4　RETAICS-PV：自発報告データベースを用いた時間解析研究の報告ガイドライン開発の現況

○舘　知也[1]、増田　陸人[2]、横山　聡[3]、伊野　陽子[4]、吉村　知哲[3]、野口　義紘[3]
[1]名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学分野、[2]岐阜薬科大学病院薬学研究室、
[3]近畿大学薬学部個別化薬物療法学分野、[4]岐阜薬科大学健康医療薬学研究室

共催：一般社団法人日本医薬品安全性学会 副作用データベース解析部会

シンポジウム042　15:40～17:40

医薬品の製造販売中止後の医薬品情報など関係資料の保存・管理システム構築の方策を考える

オーガナイザー：渡辺　善照（NPO法人ジェネリック医薬品協議会理事長）
折井　孝男（一般社団法人医薬品情報標準化推進機構）
座長：渡辺　善照（NPO法人ジェネリック医薬品協議会理事長）
折井　孝男（一般社団法人医薬品情報標準化推進機構）

22-06-S042-1　【基調講演】製造販売中止後の医薬品情報の在り方- 行政の視点 -

○中井　清人
厚生労働省大臣官房審議官（医薬担当）

22-06-S042-2　医薬品関連情報の継承並びに保存・管理システム構築に向けてーアンケート調査結果から考えるー

○渡辺　善照
NPO法人ジェネリック医薬品協議会（GEDA）

22-06-S042-3　長期収載品撤退時の情報保管のあり方について―ジェネリック医薬品の立場から

○大野　公嗣
日本ジェネリック製薬協会安全性委員会

22-06-S042-4　医療現場における製造販売中止後の医薬品情報の保存・管理を考える　～医薬品情報業務から見える課題～

○安島　秀友
横浜市立大学附属病院薬剤部

22-06-S042-5　医薬品情報を保険薬局薬剤師として考える

○田中　千尋
公益社団法人日本薬剤師会

11月22日(日)　　第7会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間B）

シンポジウム029　　9:30～11:30

制吐療法の新展開 ～成熟領域に潜む盲点と次世代研究の方向性～

オーガナイザー：青山　剛（がん研究会有明病院）
飯原　大稔（岐阜大学医学部附属病院薬剤部）
座長：青山　剛（がん研究会有明病院）
渡邊　大地（岐阜薬科大学）

22-07-S029-1　エビデンスが乏しい領域をどう切り拓くか ～スコーピングレビューを用いた研究戦略～

○渡邊　大地
岐阜薬科大学実践薬学研究推進センター

22-07-S029-2　制吐薬の減薬に挑む ～高齢者における最適制吐療法の再考～

○横川　貴志
東京薬科大学薬学部臨床薬理学教室

22-07-S029-3　最適な制吐療法を届けるための新規リスク因子の探索～術後悪心・嘔吐はがん薬物療法に伴う悪心・嘔吐を予測できるか～

○山本　扇里
市立青梅総合医療センター薬剤部

22-07-S029-4　「制吐療法に何を求めているの？」から考える臨床アウトカム評価

○川口　崇
東京薬科大学臨床評価学教室

22-07-S029-5　制吐療法の実装科学～ガイドラインとリアルワールドをつなぐ臨床導入の最適化～

○石井　千博
国立がん研究センター東病院薬剤部

シンポジウム039　　13:20～15:20

エビデンスを「使う」から「創る」へ：救急・集中治療領域の clinical question を解決に導く思考と実践

オーガナイザー：内田　淳（山梨大学医学部附属病院薬剤部）
西田　祥啓（金沢医科大学病院薬剤部）
座長：中薗　健一（川崎市立多摩病院薬剤部）
内田　淳（山梨大学医学部附属病院薬剤部）

22-07-S039-1　なぜ今，救急・集中治療領域では臨床現場からのエビデンス創出が必要なのか

○西田　祥啓
金沢医科大学病院薬剤部

22-07-S039-2　現場の「違和感」をクリニカルクエスチョンへ：救急・集中治療における臨床的視点の磨き方

○立石　裕樹
医療法人徳洲会福岡徳洲会病院薬剤部

22-07-S039-3　救急・集中治療領域におけるCQをRQへ構造化する思考と実践

○石塚　慧
日本大学医学部附属板橋病院薬剤部

22-07-S039-4　CQを解決するために：未経験からの基礎研究

○矢野　賢明
愛媛大学医学部附属病院薬剤部

22-07-S039-5　救急・集中治療領域から生まれるCQ解決へ　－臨床的アプローチによるエビデンス活用から創出まで－

○今浦　将治
済生会横浜市東部病院薬剤部

22-07-S039-6　「まずやってみる」から始まるエビデンス創出：救急・集中治療薬剤師の実践と発信

○加藤　隆寛
高知大学医学部附属病院薬剤部

共催：一般社団法人日本集中治療医学会

シンポジウム043　15:40～17:40

薬剤師のための臨床研究における生成AI活用術：リサーチクエッションから論文執筆まで

オーガナイザー：吉廣　尚大（広島大学病院薬剤部）
森尾　佳代子（和歌山県立医科大学薬学部医療薬剤学研究室）
座長：吉廣　尚大（広島大学病院薬剤部）
森尾　佳代子（和歌山県立医科大学薬学部医療薬剤学研究室）

22-07-S043-1　現場を持つことが強みになる：生成AI時代の臨床研究総論

○片岡　裕貴
名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

22-07-S043-2　忙しい薬剤師のための研究初期段階における生成AI活用 －RQの精緻化からシステマティックレビューを見据えた文献検索－

○瀧川　正紀
東邦大学薬学部臨床薬剤学教室

22-07-S043-3　生成AI支援でつくる再現可能な環境

○吉廣　尚大
広島大学病院薬剤部

22-07-S043-4　生成AIでラクするデータ抽出と図表作成：効果的な活用のポイントと注意点

○小武　和正
公益財団法人慈圭病院薬局

22-07-S043-5　論文執筆における生成AI活用法

○森尾　佳代子
和歌山県立医科大学薬学部医療薬剤学研究室

共催：一般社団法人 臨床研究・ピアサポートグループ

11月22日(日)　　第8会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間C）

シンポジウム030　　9:30～11:30

2040年の多疾患併存社会におけるシックデイマネジメント―平時から災害時までを含めた薬物療法管理の実践―

オーガナイザー：髙多　瞭治（金沢医科大学病院薬剤部）
三宅　健文（社会医療法人誠光会淡海医療センター/淡海ふれあい病院薬剤部）
座長：中薗　健一（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部）
三宅　健文（社会医療法人誠光会淡海医療センター/淡海ふれあい病院薬剤部）

22-08-S030-1　慢性疾患におけるシックデイマネジメントと災害時の透析マネジメント
○古市　賢吾
金沢医科大学腎臓内科学

22-08-S030-2　糖尿病におけるシックデイマネジメント
○西田　承平
岐阜大学医学部附属病院薬剤部

22-08-S030-3　慢性腎臓病におけるシックデイマネジメント
○八木　亮夕子
東京都立多摩総合医療センター薬剤科

22-08-S030-4　心不全におけるシックデイマネジメント
○栗原　弘充
芳賀赤十字病院薬剤部

22-08-S030-5　災害時のシックデイマネジメント
○柴田　啓智
済生会熊本病院薬剤部

22-08-S030-6　慢性疾患におけるシックデイマネジメントの今後の課題
○高多　瞭治[1]、西田　祥啓[1]、平野　あすか[1]、岡田　守弘[2]、小林　星太[3]、三宅　健文[4]、政氏　藤玄[1]
[1]金沢医科大学病院薬剤部、[2]北陸大学薬学部、[3]かがやきクリニック、
[4]淡海医療センター・淡海ふれあい病院薬剤部門

シンポジウム040　　13:20～15:20

臨床研究に向き合う私たちのバイアスを紐解く！～自施設の障壁を越えた研究の開拓と持続に向けて～

オーガナイザー：中野　祐樹（佐賀大学医学部附属病院薬剤部）
藤井　宏典（岐阜大学医学部附属病院薬剤部）
座長：岡田　直人（山口大学医学部附属病院薬剤部）
土屋　雅美（慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座）

22-08-S040-1　学生の視点から紐解く臨床研究における認識のバイアス
○坂崎　友香
熊本大学大学院薬学教育部

22-08-S040-2　市中病院の研究環境に潜むバイアスを紐解く―日常診療の問いを研究に変えるための実践知―
○中野　祐樹
佐賀大学医学部附属病院薬剤部

22-08-S040-3　特定臨床研究開始から多施設共同第III相試験の実施まで―大学病院で経験した「研究を続ける壁」と見えないバイアス―

○飯村　洋平
東京大学医科学研究所附属病院薬剤部

22-08-S040-4　薬局における研究のバイアスをどう乗り越えるか

○近藤　悠希
熊本大学大学院生命科学研究部臨床薬理学分野

22-08-S040-5　研究者を取り巻く見えないバイアス―患者のための研究が育つ土壌を考える―

○藤井　宏典
岐阜大学医学部附属病院薬剤部

シンポジウム044　15:40～17:40

地域フォーミュラリの始め方　ー石川県白山野々市地区の取り組みー

オーガナイザー：今井　博久（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）
金原　寛子（公立松任石川中央病院薬剤室）
座長：金原　寛子（公立松任石川中央病院薬剤室）
今井　博久（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

22-08-S044-1　地域フォーミュラリ実施の正しい理解について －「しらやまフォーミュラリ」を例に－

○今井　博久[1,2]
[1]帝京大学大学院公衆衛生学研究科、[2]日本フォーミュラリ学会理事長

22-08-S044-2　しらやまフォーミュラリの立ち上げ

○横山　邦彦
白山石川医療企業団公立松任石川中央病院放射線総合診療センター

22-08-S044-3　地域フォーミュラリにおける薬剤選定と後発医薬品銘柄選定

○金原　寛子
白山石川医療企業団公立松任石川中央病院薬剤室

22-08-S044-4　アプリケーションを用いた地域処方データ収集システムの地域フォーミュラリ策定への応用

○松田　泰美[1,2]
[1]井口まつだ薬局、[2]石川県薬剤師会白山ののいち支部長

共催：一般社団法人日本フォーミュラリ学会

11月22日(日)　第13会場（金沢市アートホール　6F　ホール）

シンポジウム031　9:30～11:30

絆(つなぐ)で築く！オール薬剤師で挑む臨床教育と次世代育成

オーガナイザー：奥田　真弘（大阪大学医学部附属病院薬剤部）
高橋　一栄（大阪府済生会野江病院薬剤科）
座長：奥田　真弘（大阪大学医学部附属病院薬剤部）
細野　浩之（東京大学大学院薬学系研究科・薬学部医療薬学教育センター）

22-13-S031-1　勤務経験を通して感じた大学と病院をつなぐとは

○津田　真弘
福井大学医学部附属病院薬剤部

22-13-S031-2　卒後研修を通して大学と薬剤師をつなぐとは

○今西　孝至
京都薬科大学臨床薬学教育研究センター

22-13-S031-3　研修受け入れを通して病院と薬局をつなぐとは

○萱野　勇一郎
社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院

22-13-S031-4　コアカリで学生と薬剤師をつなぐとは

○角山　香織
大阪医科薬科大学薬学部臨床薬学教育研究センター

22-13-S031-5　日本とアメリカの薬学教育をつなぐとは

○小崎　彩
University of California, IrvineSchool of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences

シンポジウム041　13:20〜15:20

病院薬剤師としての臨床経験を基盤としたキャリアパス〜2040年社会課題解決に向けやるべきCritical Mission〜

オーガナイザー：辻　大樹（静岡県立大学薬学部）
野村　久祥（京都大学医学部附属病院薬剤部）
座長：辻　大樹（静岡県立大学薬学部）
野村　久祥（京都大学医学部附属病院薬剤部）

22-13-S041-1　病院薬剤師の臨床経験を基盤としたキャリアパス―2040年社会課題解決に向けたCritical Mission―

○鈴木　高弘
横浜薬科大学薬学部

22-13-S041-2　病院での臨床の基盤を地域へバトンをつなぐー在宅医療に関わる薬局薬剤師へのキャリアパスー

○大野　朋子
株式会社akホールディングス上永谷薬局

22-13-S041-3　病院薬剤師の臨床経験を基盤としたキャリア病院薬剤師からがん専門薬剤師、そして起業家へ－医療価値を広げるキャリアの可能性－

○和田　敦
株式会社MediFrame

22-13-S041-4　病院薬剤師としてのキャリアパス〜大学病院に勤務するがん専門薬剤師として、臨床から学び続ける〜

○東　加奈子
東京医科大学病院薬剤部

シンポジウム045　15:40〜17:40

2040年の社会課題に挑む薬剤師の予防医療 ―医療薬学の実践と人材育成―

オーガナイザー：桝田　浩司（国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター薬剤部）
伊藤　正輝（医療法人鳳生会成田病院薬剤部）
座長：桝田　浩司（国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター薬剤部）
伊藤　正輝（医療法人鳳生会成田病院薬剤部）

22-13-S045-1　2040年、薬剤師は予防医療にどう関わるか

○桝田　浩司
国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター薬剤部

22-13-S045-2　Cardiovascular-Kidney-Metabolic症候群の予防医療と実践知

○平井　利典
東京科学大学病院薬剤部

22-13-S045-3　がん診療の現場から予防医療を実装する病院薬剤師の役割

○伊勢崎　竜也
亀田総合病院薬剤部

22-13-S045-4　薬局薬剤師による予防医療実践　-薬局から教育機関・地域への多層的アプローチ-

○鈴木　仁
株式会社アインファーマシーズアイン薬局岸辺店

22-13-S045-5　2040年を見据えた薬の専門家たる医療人の養成

○潮平　英郎
昭和薬科大学臨床薬学研究室

11月22日(日)　第14会場（ホテル金沢　4F　エメラルドA）

シンポジウム032　9:30〜11:30

薬剤師が繋ぐ在宅医療の輪〜三位一体で実現するエビデンスと地域連携〜

オーガナイザー：加藤　隆児（大阪医科薬科大学）
内田　まやこ（九州大学病院薬剤部）
座長：高井　靖（三重ハートセンター診療支援部）
辻本　貴江（神戸学院大学薬学部）

22-14-S032-1　病院から在宅への薬物療法移行支援―薬剤管理サマリの活用とPCAポンプ運用の実際―

○村上　翔梧
医療法人橘会東住吉森本病院薬剤部

22-14-S032-2　終末期重症心不全患者に対する在宅持続ドブタミン療法導入における保険薬局の介入―在宅療養のコーディネーターとして機能―

○中村　薫
北陸クオール株式会社木田らいふ薬局

22-14-S032-3　卒前・卒後をつなぐ薬剤師教育の実践―輸液療法・無菌調製から地域連携まで―

○内田　まやこ
九州大学病院薬剤部

22-14-S032-4　循環動態と腎機能からみた栄養管理のエビデンスの構築

○加藤　隆児
大阪医科薬科大学薬学部

22-14-S032-5　薬剤に必要な臨床力を発揮するには

○近藤　幸男
東京薬科大学薬局・地域支援連携室

シンポジウム517　13:20〜14:50

2040年問題に挑む褥瘡医療の再設計― 薬剤師参画による予防・治療・生活支援の統合モデル ―

オーガナイザー：飯塚　雄次（帝京大学ちば総合医療センター）
関根　祐介（東京医科大学病院）
座長：飯塚　雄次（帝京大学ちば総合医療センター）
宮川　哲也（上越地域医療センター病院）

22-14-S517-1　新たな地域医療構想における薬剤師の役割：予防・早期介入で挑むスキンフレイルからの褥瘡マネジメント

○飯田　純一
済生会横浜市南部病院入退院支援センター

22-14-S517-2　褥瘡外用薬治療の実臨床における基剤特性、薬剤滞留、感染制御、清浄化の4本の柱に基づく円滑な褥瘡治療〜フルタ・メソッド

○古田　勝経
医療法人愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター

22-14-S517-3　褥瘡外用薬の製剤特性を臨床へつなぐ―基礎研究データから考える創面に応じた薬剤選択―

○笹津　備尚
星薬科大学組織再生学／基礎実習研究部門

22-14-S517-4　褥瘡医療、正しい波及の鍵は「薬剤師」〜薬局薬剤師を取巻く現状とこれからあるべき姿とは〜

○築地　美由樹
株式会社ウィーズバニラ薬局在宅調剤センター

シンポジウム521　15:00〜16:30

生活の場へ医療を届けるデバイス・マネジメント 〜がん・神経・免疫の自己管理支援とシームレスな連携〜

オーガナイザー：大野　凜太郎（済生会宇都宮病院薬剤部）
座長：大野　凜太郎（済生会宇都宮病院薬剤部）
眞田　香帆里（ハーモニー薬局）

22-14-S521-1　薬剤師外来における自己注射・デバイス指導の横断的実践―患者の「手」と「生活」に合わせた選択と継続支援―

○沢　仁美
川西市立総合医療センター薬剤科

22-14-S521-2　炎症性腸疾患（IBD）における生物学的製剤の自己注射指導とアドヒアランス支援

○久米　学
神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部

22-14-S521-3　生活の場へ飛び込む！進行期パーキンソン病デバイス療法を支える能動的アプローチ

○新井　成牧
株式会社ツル薬局

22-14-S521-4　がん疼痛管理におけるPCAポンプ（CADD等）の退院時指導とトラブルシューティング

○地丸　裕美
大阪府済生会野江病院

22-14-S521-5　在宅輸液療法（HPN）におけるCVポート管理とトラブル対策＜在宅療養支援診療所薬剤師の視点＞

○山本　隆裕
さつきホームクリニック

シンポジウム525　16:40〜18:10

サルコペニア・フレイル診療における薬学的介入と多角的研究展開

オーガナイザー：新村　貴博（徳島大学大学院医歯薬学研究部）
合田　光寛（広島大学大学院医系科学研究科）
座長：新村　貴博（徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野）
合田　光寛（広島大学大学院医系科学研究科臨床薬理学分野）

22-14-S525-1　入院・外来・地域へと繋がる低栄養・フレイル・サルコペニア対策－多職種連携による地域への展開－

○篠永　浩
三豊総合病院薬剤部

22-14-S525-2　サルコペニア研究におけるデータサイエンスの応用と可能性

○新村　貴博
徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野

22-14-S525-3　感染症病態を制御する骨格筋の力

○榎木　裕紀
慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座

22-14-S525-4　骨格筋代謝研究が拓くサルコペニア・フレイル診療

○野村　和弘
徳島大学大学院医歯薬学研究部代謝栄養学分野

11月22日（日）　第15会場（ホテル金沢　4F　エメラルドB）

シンポジウム033　9:30〜11:30

地域薬学ケア専門薬剤師による臨床判断の深化とアウトカムの創出 〜慢性疾患管理薬学的介入のデザイン〜

オーガナイザー：鈴木　邦彦（つなぐ薬局学術研修室）
阿部　真也（つなぐ薬局学術研修室）
座長：小茂田　昌代（千葉西総合病院薬剤部）
豊美　敦（公益社団法人日本薬剤師会常務理事）

22-15-S033-1　地域薬学ケア専門薬剤師がデザインする在宅糖尿病ケア〜実践的介入から見えてくる臨床的成果〜

○阿部　真也[1,2]
[1]ワイズ株式会社つなぐ薬局足立、[2]帝京大学薬学部薬学教育推進センター

22-15-S033-2　地域薬学ケア専門薬剤師がつなぐ褥瘡ケア 〜多職種連携と患者アウトカム 〜

○小黒　佳代子
株式会社ファーマ・プラスプラス薬局高崎吉井店

22-15-S033-3　医師との同時訪問からの学びと慢性疾患の薬学的介入

○村阪　敏規
こうなん薬局

22-15-S033-4　地域薬学ケア専門薬剤師研修で学んだ処方支援の視点

○鈴木　邦彦
つなぐ薬局学術研修室

シンポジウム518　13:20～14:50

OTC医薬品中毒という社会課題に薬剤師はどう立ち向かうか

オーガナイザー：森川　剛（岩手医科大学法科学講座法医学分野）
山口　浩明（山形大学医学部附属病院薬剤部）
座長：森川　剛（岩手医科大学法科学講座法医学分野）
山口　浩明（山形大学医学部附属病院薬剤部）

22-15-S518-1　OTC医薬品中毒の現状と対策

○廣瀬　正幸[1]、植西　憲達[2]、平川　昭彦[3]
[1]藤田医科大学病院薬剤部、[2]藤田医科大学病院救急総合内科、[3]田附興風会医学研究所北野病院救急科

22-15-S518-2　OTC医薬品中毒による死亡事例と分析の実際―法医学と医療現場をつなぐ視点から―

○永澤　明佳
千葉大学大学院薬学研究院法中毒学研究室

22-15-S518-3　一般用医薬品の過量摂取における薬物動態予測の不確実性

○安達　昂一郎
昭和薬科大学薬学部臨床薬学研究室

22-15-S518-4　薬局薬剤師から見たOTC医薬品OD―早期発見とアフターフォローの実践―

○前原　雅樹
杉山薬局

22-15-S518-5　救急医から見たOTC医薬品中毒―重症度評価と多職種教育の重要性―

○竹川　良介
大阪大学大学院医学系研究科救急医学

共催：一般社団法人日本中毒学会

シンポジウム522　15:00～16:30

“伝える”がいちばん難しい　ー生殖能を有する患者への医薬品情報、薬剤師はどう関わるかー

オーガナイザー：米村　雅人（国立がん研究センター東病院薬剤部）
座長：米村　雅人（国立がん研究センター東病院薬剤部）
甘粕　晃平（医薬品医療機器総合機構RS統括部）

22-15-S522-1　安全性情報としての生殖能への影響評価－PMDAの承認審査における非臨床安全性評価の立場から－

○黒河　佐知子
独立行政法人医薬品医療機器総合機構

22-15-S522-2　生殖能を有する患者に対する医薬品安全性情報の提供―性腺毒性・生殖能への影響に関する市販後安全対策の観点から－

○江崎　仁美
独立行政法人医薬品医療機器総合機構

22-15-S522-3　性腺毒性リスクの解釈を支える基礎研究の視点

○田中　雄太
岡山大学病院薬剤部

22-15-S522-4　臨床現場における医薬品の性腺毒性への考え方

○篠原　旭
国立がん研究センター東病院薬剤部

シンポジウム526　16:40〜18:10

偶発的な妊娠を減らすためにできること〜催奇形性のある医薬品から学ぶ〜

オーガナイザー：八鍬　奈穂（独立行政法人医薬品医療機器総合機構医薬品安全対策第一部）
山根　律子（虎の門病院薬剤部）
座長：八鍬　奈穂（独立行政法人医薬品医療機器総合機構医薬品安全対策第一部）
山根　律子（虎の門病院薬剤部）

22-15-S526-1　バルプロ酸曝露例から考える

○赤阪　未来
国立病院機構岡山医療センター

22-15-S526-2　ミコフェノール酸モフェチル曝露例から考える

○荒木　小百合
虎の門病院薬剤部

22-15-S526-3　イソトレチノイン曝露例から考える

○三浦　寄子
国立成育医療研究センター薬剤部

22-15-S526-4　海外における妊娠予防プログラムとICH E21の最新動向

○元木　葉子
独立行政法人医薬品医療機器総合機構医薬品安全対策第一部

11月22日(日)　第16会場（ホテル金沢　5F　アプローズ）

シンポジウム034　9:30〜11:30

外来業務の新展開ー 次世代業務の標準化と持続可能なモデルの構築

オーガナイザー：後藤　一美（聖路加国際病院薬剤部）
柴田　ゆうか（日本大学薬学部）
座長：朝賀　純一（岩手医科大学附属病院薬剤部）
平下　智之（岐阜県総合医療センター）

22-16-S034-1　外来薬剤業務の標準化と高度化：ハイリスク薬に関する業務ガイドライン（Ver.2.3）の要点

○津田　泰正
聖路加国際病院薬剤部

22-16-S034-2　ICI投与患者におけるirAE早期発見のための検査入力支援PBPMの実践　―持続可能ながん薬物療法を目指して―

○森本　麻友
神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部

22-16-S034-3　外来から"その先"へつなぐ薬剤師業務―予定入院患者の入院時持参薬オーダ発行PBPMと救命救急センターでの超急性期介入―

○菅　直恵
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院薬剤部

22-16-S034-4　生成AI活用による業務効率化の実践―術前休薬確認指導記録時間 短縮の実例を通して―

○香川　陽人
公益財団法人操風会岡山旭東病院薬剤部

22-16-S034-5　薬剤師業務の可視化による人的資源の確保と持続可能な薬剤部運営

○池内　忠宏
福岡大学病院薬剤部

シンポジウム519　13:20～14:50

薬剤師外来はがん薬物療法に何をもたらしたか　－エビデンスの深化と課題の解決－

オーガナイザー：郷　真貴子（大垣市民病院）
松尾　宏一（福岡大学薬学部）
座長：松尾　宏一（福岡大学薬学部）
吉村　知哲（岐阜薬科大学薬学部）

22-16-S519-1　調査から見える薬剤師外来の変遷

○松井　礼子
国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター

22-16-S519-2　薬剤師外来の実践知とエビデンスの創出　―単施設の成果から―

○郷　真貴子
大垣市民病院

22-16-S519-3　経口抗がん薬治療における薬剤師の継続的患者フォロー：エビデンスの現在地と体制構築への展望

○林　稔展
福岡大学薬学部

22-16-S519-4　薬剤師外来の価値をどう評価するか―診療報酬と制度の展望―

○内田　裕之
関東労災病院薬剤部

シンポジウム523　15:00～16:30

精神科外来薬剤師 はじめの一歩！ ～多職種で考える地域移行を見据えた新しい業務展開～

オーガナイザー：清水　善仁（金沢医科大学病院薬剤部）
井手　健太（産業医科大学病院薬剤部）
座長：清水　善仁（金沢医科大学病院薬剤部）
井手　健太（産業医科大学病院薬剤部）

22-16-S523-1　精神科外来における診察前薬剤師面談の普及に向けて―手引き開発の経緯と今後の期待―

○谷藤　弘淳
こだまホスピタル薬剤部

22-16-S523-2　精神科における薬剤師外来の実践で切り拓く薬学的介入の真価

○進　健司
飯塚病院薬剤部

22-16-S523-3　当院精神科外来における診察前薬剤師面談の取り組みについて～精神科医師が期待すること～

○新田　佑輔
金沢医科大学精神神経科学

22-16-S523-4　病院薬剤師による診察前面談について、薬局薬剤師として感じること ～トレーシングレポートとの棲み分けや面談内容の共有など～

○中田　裕介
合資会社中田薬店ゆう薬局

シンポジウム527　16:40～18:10

2040年の社会課題に挑むセーフティネット系医療を支える薬剤師業務の多様性

オーガナイザー：林　誠（国立病院機構東名古屋病院薬剤部）
鶴崎　泰史（国立病院機構佐賀病院薬剤部）
座長：林　誠（国立病院機構東名古屋病院薬剤部）
鶴崎　泰史（国立病院機構佐賀病院薬剤部）

22-16-S527-1　セーフティネット系医療を支える薬剤師業務の現状と今後～障害者施設等入院基本料算定病棟での薬剤師業務調査結果をふまえて～

○鶴崎　泰史
国立病院機構佐賀病院薬剤部

22-16-S527-2　セーフティネット系医療の薬物療法支援～病院薬剤師の課題と実践～

○花田　聖典
独立行政法人国立病院機構南九州病院薬剤部

22-16-S527-3　在宅医療を支える薬剤師の実践-制度・多職種連携・症例から考えるセーフティネット系薬学ケア-

○小林　星太[1,2,3]
[1]かがやきクリニック、[2]サードベース診療所、[3]北陸大学薬学部

22-16-S527-4　セーフティネット系医療の患者支援につなげる薬学研究

○石田　奈津子
金沢大学医薬保健研究域薬学系

22-16-S527-5　薬学部での希少疾患分野（セーフティネット系医療含む）教育の現状と課題

○山谷　明正
明治薬科大学薬学教育研究センター臨床薬学部門/小児周産期薬学

11月23日(月・祝)　　第1会場（石川県立音楽堂　2F　コンサートホール）

日本医療薬学会賞受賞・学術賞受賞・奨励賞受賞講演　8:45～10:20

座長：崔　吉道（金沢大学附属病院薬剤部）
寺田　智祐（京都大学医学部附属病院薬剤部）

AW-1　高精密分離分析技術を駆使した臨床化学研究
○眞野　成康
東北大学病院薬剤部

AW-2　がん薬物療法における制吐療法の最適化に関する研究
○飯原　大稔
岐阜大学医学部附属病院薬剤部

AW-3　実臨床データと生理学的薬物速度論に基づく個別化薬物療法に関する医療薬学研究
○土岐　浩介
筑波大学附属病院薬剤部

AW-4　超高齢社会における医療課題に対する感染症治療の最適化とサルコペニアを軸としたトランスレーショナル研究
○榎木　裕紀
慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座

AW-5　移植医療における免疫抑制薬および抗微生物薬の個別化薬物療法に関する臨床薬学研究
○片田　佳希
京都大学医学部附属病院薬剤部

AW-6　リアルワールドデータと薬物相互作用解析に基づく薬剤性電解質異常のリスク層別化
○平井　利典
東京科学大学病院薬剤部

AW-7　既存薬の副次的作用による抗腫瘍効果修飾メカニズムの解明と臨床応用
○八木　健太
島根大学医学部附属病院薬剤部

Postdoctoral Award受賞講演　10:30～12:40

座長：池末　裕明（名古屋大学医学部附属病院薬剤部）
菅　幸生（金沢大学医薬保健研究域薬学系）

PA-1　臨床データを活用した骨転移を伴う癌患者に対する薬物治療の個別化に関する研究
○池上　慶祐
東京大学病院

PA-2　血清クレアチニンベースの推算糸球体濾過量が過大評価となる要因の解明とシスタチンC測定の有用性に関する研究
○石郷　友之
札幌医科大学附属病院薬剤部

PA-3　リネゾリド誘発性血小板減少症の要因分析ならびにオキサゾリジノン系抗菌薬の唾液中濃度による治療モニタリング法の構築
○井上　優希
北海道大学病院薬剤部

PA-4 救急集中治療領域における感染症薬物治療の適正化を目的とする研究

○伊部　裕太
札幌医科大学附属病院薬剤部

PA-5 大規模診療報酬データベースを用いた免疫チェックポイント阻害薬の有害事象に関する臨床疫学研究

○祝　千佳子[1,2]
[1]国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部、
[2]東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学

PA-6 DDSキャリアの応用及び改変によるB細胞ワクチンの開発とmRNAワクチンの起炎性制御

○川口　桂乃
浜松医科大学医学部附属病院薬剤部

PA-7 Development of extended pharmacokinetic models for propofol based on measured blood and brain concentrations

○川田　将義
京都大学医学部附属病院薬剤部

PA-8 薬剤併用による急性腎障害リスクの評価とその展開

○國津　侑貴
京都大学医学部附属病院薬剤部

PA-9 セフメタゾールの有効性および安全性を考慮したPK/PDに基づく最適投与法およびINR上昇予測モデルの構築

○並木　孝哉
東京ベイ・浦安市川医療センター

PA-10 婦人科癌に対する抗癌剤による副作用管理・薬剤選択のエビデンスの構築に関する研究

○奈良　克彦
東京大学医学部附属病院薬剤部

PA-11 口腔外科手術における新たな予防的抗菌薬投与戦略の開発

○山神　彰
慶應義塾大学薬学部ヘルスケア・イノベーション薬学講座

PA-12 Valproic acid treatment attenuates cisplatin-induced kidney injury by suppressing proximal tubular cell damage

○吉岡　俊彦[1,2]
[1]徳島大学病院薬剤部、[2]徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学分野

PA-13 ドキソルビシン誘発心筋症モデルマウスを用いた治療薬候補の探索と作用機序の検討

○吉川　直貴
山梨大学医学部附属病院薬剤部

年会企画シンポジウム6 **14:00～15:30**

市販薬のオーバードーズという課題に社会の中で薬剤師はどう向き合うか－医療の枠を超えた連携と地域支援－

オーガナイザー：坪内　清貴（金沢大学附属病院薬剤部）
座長：坪内　清貴（金沢大学附属病院薬剤部）
中村　友喜（三重県立こころの医療センター診療技術部/感染管理室）

YPS6-1 **市販薬のオーバードーズに対する病院薬剤師の実践と課題―精神科専門薬剤師・学校薬剤師・保健所との地域連携を通じて―**

○中村　友喜
三重県立こころの医療センター診療技術部・感染管理室

YPS6-2 **市販薬ODに学校薬剤師・薬局薬剤師はどう向き合うか**

○橋本　佳奈
株式会社スパーテル（てまりグループ）

YPS6-3 **精神科医のオーバードーズへの向き合い方**

○内藤　暢茂
社会福祉法人金沢市民生協会ときわ病院

YPS6-4 **「止める」だけでは届かない――ピアのソーシャルワーカーから見た市販薬オーバードーズと若者支援**

○風間　暁
認定特定非営利活動法人ASK

YPS6-5 **オーバードーズに隠されたSOS：ゲートキーパーとしての薬剤師**

○嶋根　卓也
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

11月23日（月・祝） **第2会場（石川県立音楽堂　2F　邦楽ホール）**

シンポジウム528 **8:45～10:15**

抗精神病薬のちょうどいい使い方～精神疾患×身体疾患ではどう使う？どう止める？～

オーガナイザー：桑原　秀徳（瀬野川病院診療支援部）
三輪　高市（鈴鹿医療科学大学薬学部）
座長：桑原　秀徳（瀬野川病院診療支援部）
三輪　高市（鈴鹿医療科学大学薬学部）

23-02-S528-1 **リエゾン精神科医が考える、抗精神病薬のちょうどいい使い方**

○坪本　真
市立砺波総合病院精神科

23-02-S528-2 **糖尿病合併例での抗精神病薬の使い方**

○井手　健太
産業医科大学病院薬剤部

23-02-S528-3 **嚥下機能障害発生時・誤嚥性肺炎治療時の抗精神病薬の使い方**

○徳谷　晃
兵庫医科大学病院薬剤部

23-02-S528-4　外来や在宅における身体合併症治療場面での抗精神病薬適正使用
～薬局薬剤師の立場から～

○中田　裕介
合資会社中田薬店ゆう薬局

共催：一般社団法人日本精神薬学会

シンポジウム540　10:30～12:00

精神科薬物療法における医療安全 ― リスク構造の解明と薬剤師の臨床意思決定

オーガナイザー：島ノ江　千里（佐賀大学医学部附属病院薬剤部）
江角　悟（神戸学院大学薬学部）
座長：島ノ江　千里（佐賀大学医学部附属病院薬剤部）
江角　悟（神戸学院大学薬学部）

23-02-S540-1　精神科薬物療法における転倒リスクと薬剤師の判断基準：エビデンスと実臨床の乖離を埋める視点

○小林　聖子
千歳篠田病院薬局

23-02-S540-2　薬剤から考えるせん妄リスクと医療安全

○祖川　倫太郎
佐賀大学医学部附属病院薬剤部

23-02-S540-3　精神科薬物療法と相互作用が引き起こす安全上の課題

○大野　能之、今井　康太
東京大学医学部附属病院薬剤部

23-02-S540-4　ドラッグロックの回避に向けた薬剤師主導の介入と薬物療法マネジメントの展望

○進　健司
飯塚病院薬剤部

共催：一般社団法人日本精神薬学会

シンポジウム551　14:00～15:30

精神科医がいない現場でこそ、薬剤師は何を担うのか―施設差と教育の視点から

オーガナイザー：伊東　弘樹（大分大学医学部附属病院薬剤部）
祖川　倫太郎（佐賀大学医学部附属病院薬剤部）
座長：伊東　弘樹（大分大学医学部附属病院薬剤部）
祖川　倫太郎（佐賀大学医学部附属病院薬剤部）

23-02-S551-1　精神科医の配置差からみた精神科医療の質と薬剤師への期待

○井上　真一郎
新見公立大学健康科学部看護学科

23-02-S551-2　精神科医と協働する現場における薬剤師の役割：臨床実践から研究へ

○波多野　正和
藤田医科大学医学部薬物治療情報学

23-02-S551-3　精神科医不在の中小身体科病院で薬剤師は何を担っているのか：精神科薬剤師の実践と役割

○鴉崎　道則
医療法人横浜博萌会西横浜国際総合病院診療技術部薬剤科

23-02-S551-4　大学病院から精神科病院への出向経験から考える施設横断型薬剤師の役割 ―薬剤業務向上加算を通して―

○五十嵐　保陽
福岡大学病院医療安全管理部/薬剤部

23-02-S551-5　精神科医療を担える薬剤師をどう育てるか

○江角　悟[1]、木村　郁哉[2,3]
[1]神戸学院大学薬学部、[2]岡山大学病院薬剤部、[3]株式会社Medswell

11月23日(月・祝)　　第3会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間(西・中)）

シンポジウム529　　8:45～10:15

人員不足を乗り越える抗がん薬調製ロボット―次世代に向けた導入戦略とビジョン―

オーガナイザー：髙山　俊輔（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）
座長：髙山　俊輔（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）
滝澤　康志（飯山赤十字病院薬剤部）

23-03-S529-1　抗がん薬自動調製装置APOTECA chemoの2台運用と調製業務の工夫について

○髙山　俊輔、増村　雅斗、佐久間　陽介、樋口　隼斗、藤田　祐也、伊藤　護之
埼玉医科大学国際医療センター薬剤部

23-03-S529-2　注射抗がん剤自動調製装置APOTECA chemoがもたらす安全性と有用性について

○尾田　未来
横浜市立大学附属市民総合医療センター

23-03-S529-3　抗がん薬混合調製ロボットChemoRoの活用とタスク・シフト／シェア

○大江　泰
神戸市立医療センター中央市民病院

23-03-S529-4　抗がん薬混合調製ロボットChemoRoの導入経験と波及効果

○坂本　健一
広島赤十字・原爆病院薬剤部

シンポジウム541　　10:30～12:00

薬剤師を取り巻く社会課題への挑戦　～人材の確保と教育、ムダの削減と効率化、地域コミュニティづくり～

オーガナイザー：植木　哲也（産業医科大学病院薬剤部）
政氏　藤玄（金沢医科大学病院薬剤部）
座長：植木　哲也（産業医科大学病院薬剤部）
政氏　藤玄（金沢医科大学病院薬剤部）

23-03-S541-1　震災後、過疎が一段と進んだ地方病院の現状報告～人材確保と働き方～

○大屋　正宏
珠洲市総合病院

23-03-S541-2　激動の時代を乗り越える薬剤師の育成を目指して　～ある民間病院の試行錯誤の取り組み～

○高津　宏典
社会医療法人財団白十字会白十字病院

23-03-S541-3　2040年問題に挑む薬剤業務変革－薬剤業務DXによる持続可能な業務再設計－

○景山　修介
島根県立中央病院薬剤局

23-03-S541-4　医薬品廃棄金額を最小化するための取り組みとその成果

○植木　哲也
産業医科大学病院薬剤部

23-03-S541-5　高齢化した地域のコミュニティづくり

○高橋　俊輔
株式会社サンキュードラッグ

シンポジウム552　14:00〜15:30

「処方箋」から「社会的処方」へのパラダイムシフト：SDOHの視点で多職種協働による病院薬剤師の役割再定義

オーガナイザー：守内　匡（公立学校共済組合北陸中央病院薬剤科）
石川　和宏（北陸大学薬学部）
座長：守内　匡（公立学校共済組合北陸中央病院薬剤科）
石川　和宏（北陸大学薬学部）

23-03-S552-1　病棟の「点」から生活の「面」へ：多職種協働によるシームレスな移行支援と病院薬剤師の意識改革）

○守内　匡
公立学校共済組合北陸中央病院

23-03-S552-2　病院薬剤師が介入する在宅薬物療法〜患者・家族のヘルスリテラシーに着目した在宅復帰後の生活の中での薬物療法への介入〜

○豊田　直之
JA広島総合病院

23-03-S552-3　生活と治療をシームレスにつなぐ病院薬剤師の患者支援〜訪問業務の経験から得た視点〜

○長浜　恭史
公益財団法人西熊谷病院

23-03-S552-4　病院完結型医療から地域包括エコシステムへ― 社会的処方時代の薬剤師への期待 ―

○神野　正博
社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院

11月23日（月・祝）　第4会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　鳳の間（東））

シンポジウム530　8:45〜10:15

多様化する創薬モダリティに取り残されるな！　〜薬剤師が牽引する次世代医療〜

オーガナイザー：兒玉　幸修（長崎大学病院薬剤部）
城野　博史（熊本大学病院薬剤部）
座長：兒玉　幸修（長崎大学病院薬剤部）
城野　博史（熊本大学病院薬剤部）

23-04-S530-1　抗体から次世代モダリティへの進化：医療薬学の視点から紐解く適正使用と安全管理のポイント

○米澤　淳
慶應義塾大学薬学部

23-04-S530-2　核酸医薬の臨床応用と薬剤師の役割 ―薬学的管理と副作用マネジメント―

○兒玉　幸修
長崎大学病院薬剤部

23-04-S530-3　遺伝子細胞治療の現状と薬剤師の役割　―AAVベクターを用いた遺伝子治療を中心に―

○高濱　和弘[1,2]
[1]鹿児島大学病院薬剤部、[2]鹿児島大学病院臨床研究管理センター

23-04-S530-4　中分子医薬の新潮流～古くて新しいペプチド医薬～

○大庭　誠
京都府立医科大学大学院医学研究科

年会企画シンポジウム5　10:30～12:00

医薬品の創製と訪問診療の質の向上を目指した製剤的なアプローチ

オーガナイザー：荻原　琢男（東京理科大学薬学部）
花輪　剛久（東京理科大学薬学部）
座長：荻原　琢男（東京理科大学薬学部）
花輪　剛久（東京理科大学薬学部）

臨床製剤研究による訪問医療の質向上へのアプローチ

○花輪　剛久、間井田　成美
東京理科大学薬学部

YPS5-1　医薬品の創製と訪問診療の質の向上を目指した製剤的なアプローチ　趣旨説明

○荻原　琢男
東京理科大学薬学部

YPS5-2　医薬品の探索から開発, 販売, 市販後調査まで

○坂本　一樹
大鵬薬品工業株式会社研究本部創薬連携推進部

YPS5-3　医薬品の探索から開発におけるチェックポイント

○金　淳二
創剤リサーチテック合同会社

YPS5-4　薬剤師の臨床試験・臨床研究とは

○稲野　彰洋[1,2]
[1]福島県立医科大学附属病院臨床研究センター、[2]一般社団法人東北臨床研究審査機構（ACTIVATO）

YPS5-5　医療薬学における特許の役割と活用

○大西　浩之
弁理士法人眞久特許事務所

シンポジウム553　14:00～15:30

免疫細胞療法（Cellular Therapy、CAR-T細胞療法・二重特異性抗体：BsAb）を正しく恐れて、強くなろう！

オーガナイザー：粂　哲雄（静岡県立静岡がんセンター薬剤部）
座長：内田　まやこ（九州大学病院薬剤部）
粂　哲雄（静岡県立静岡がんセンター薬剤部）

23-04-S553-1　米国での免疫細胞療法に関わる薬剤師の役割～Tandem Meetings参加からみえてきたもの～

○粂　哲雄
静岡県立静岡がんセンター薬剤部

23-04-S553-2 CAR-T治療を支えるための薬剤師の役割― 早期介入を軸にした治療導入からフォローアップまでのリスクマネジメント ―

○山下　花南恵
神戸市立医療センター中央市民病院

23-04-S553-3 悪性リンパ腫におけるBsAb治療を多職種で支える～リソースに制限のある中小規模病院が取り組むプロトコルの構築と実践～

○助畑　歩
社会医療法人北楡会札幌北楡病院薬剤部

23-04-S553-4 多職種で挑む多発性骨髄腫治療～二重特異性抗体治療のリスクマネジメント～

○松本　千明
日本赤十字社医療センター

11月23日(月・祝)　第5会場（ANAクラウンプラザホテル金沢　3F　瑞雲）

委員会企画ワークショップ(2024年度医療薬学学術第2小委員会)　14:00～15:30

PISCSを活用した薬物相互作用マネジメントを実践しよう 2026

オーガナイザー：大野　能之（東京大学病院薬剤部）
ファシリテーター：大野　能之（東京大学病院薬剤部）
米澤　淳（慶應義塾大学薬学部統合臨床薬理学講座）
木村　丈司（鳥取大学医学部附属病院薬剤部）
近藤　悠希（熊本大学薬学部・大学院生命科学研究部臨床薬理学分野）
冨田　隆志（広島大学病院薬剤部）

※ワークショップは事前申込制です。当日の受付、聴講はできませんのでご了承ください。

11月23日(月・祝)　第6会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間A）

シンポジウム531　8:45～10:15

多職種調査からみた電子添付文書利活用の現状と課題

オーガナイザー：青森　達（高崎健康福祉大学薬学部）
伊藤　護之（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）
座長：青森　達（高崎健康福祉大学薬学部）
伊藤　護之（埼玉医科大学国際医療センター薬剤部）

23-06-S531-1 電子添付文書および閲覧用アプリケーションの利活用実態調査に関する結果報告～2023年度医療薬学学術第1小委員会報告～

○中田　英夫
慶應義塾大学病院薬剤部

23-06-S531-2 電子添文および添文ナビの活用状況に関する病院薬剤師・薬局薬剤師の比較と育児・介護従事者の認識調査

○舟越　亮寛
亀田総合病院薬剤部

23-06-S531-3 “見る情報”から“活用するデータ”へ。製薬業界の取り組みと電子添文XMLの可能性

○佐藤　めぐみ
日薬連安全性委員会医薬品情報提供システム検討プロジェクト

23-06-S531-4　電子添文を起点とした医薬品情報利活用のこれから　～多職種で利活用できる電子化医薬品情報を目指して～

○若林　進[1,2]
[1]杏林大学医学部付属病院薬剤部、[2]東京医療保健大学

シンポジウム542(医療薬学専門薬剤師認定委員会)　10:30～12:00

改めて考える医療薬学専門薬剤師の社会的役割―臨床の知識・経験・技能のリサイクルと社会への還元―

オーガナイザー：花輪　剛久（東京理科大学薬学部）
館　知也（名古屋市立大学大学院薬学研究科）
座長：館　知也（名古屋市立大学大学院薬学研究科）
花輪　剛久（東京理科大学薬学部）

23-06-S542-1　一般病院の医療薬学専門薬剤師が実践した臨床の知識-技能-教育-研究のサイクルマネジメント

○金井　紀仁
(TMG)医療法人東光会戸田中央総合病院薬剤科

23-06-S542-2　大学教員としてClinical Questionを循環させる―HIV薬剤師外来・ICUから研究・教育を経て次の臨床へ―

○稲垣　孝行
名城大学薬学部臨床薬学教育・研究推進センター実践薬学 1

23-06-S542-3　社会で認められる医療薬学専門薬剤師とは　－認定審査で求められること－

○舘　知也[1,2]、花輪　剛久[1,3]
[1]日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師認定委員会、[2]名古屋市立大学大学院薬学研究科、[3]東京理科大学薬学部

シンポジウム554　14:00～15:30

プレアボイド報告を基盤とした患者アウトカム改善と薬剤師職能の可視化

オーガナイザー：横山　威一郎（千葉大学医学部附属病院薬剤部）
山口　諒（東京大学医学部附属病院薬剤部）
座長：山口　諒（東京大学医学部附属病院薬剤部）
後藤　伸之（名城大学薬学部医薬品情報室）

23-06-S554-1　プレアボイド報告収集重点課題「薬剤性の高血糖および低血糖」報告事例の解析

○横山　威一郎
千葉大学医学部附属病院

23-06-S554-2　プレアボイド様式3「薬物治療効果の向上」の報告内容と評価の分析

○小倉　敬史
公益財団法人日産厚生会玉川病院

23-06-S554-3　当院におけるプレアボイドオンライン報告の取り組み－持続可能な報告体制の構築－

○熊倉　裕昌
AMG上尾中央総合病院薬剤部

23-06-S554-4　鹿児島県病院薬剤師会におけるプレアボイド報告収集活動の取り組み

○深水　知英[1,3]、上田　智之[1,4]、金澤　直子[1,3]、西元寺　慧一[1,5]、白石　智宣[1,6]、薗田　晃弘[1,7]、永濱　良章[1,8]、福留　加奈美[1,9]、村山　由香里[1,3]、山田　健太郎[1,10]、寺薗　英之[2,3]、有馬　純子[2,9]
[1]一般社団法人鹿児島県病院薬剤師会医薬品情報・プレアボイド委員会、[2]一般社団法人鹿児島県病院薬剤師会、[3]鹿児島大学病院薬剤部、[4]総合病院鹿児島生協病院薬剤部、[5]今村総合病院薬剤部、[6]県立薩南病院薬局、[7]出水郡医師会広域医療センター薬剤課、[8]川内市医師会立市民病院薬剤部、[9]鹿児島市立病院薬剤部、[10]出水総合医療センター薬剤部

23-06-S554-5　薬局プレアボイドの解析からみえる薬局薬剤師による薬物療法への関与とセルフメディケーション支援への展開

○田坂　祐一[1,2]
[1]岡山県薬剤師会安全管理特別委員会、[2]就実大学薬学部

11月23日(月・祝)　　第7会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間B)

シンポジウム532　　8:45～10:15

2040年の臨床課題に挑む薬剤師の学位取得と融合研究:保険薬局・病院・大学から再考する社会人大学院の意義

オーガナイザー：櫻間　啓基（九州医療科学大学薬学部臨床薬学第一講座）
座長：櫻間　啓基（九州医療科学大学薬学部臨床薬学第一講座）
板井　進悟（金沢大学附属病院薬剤部）

23-07-S532-1　地域医療課題を研究へつなぐ社会人大学院の意義～保険薬局経営者の視点から～

○稲葉　一郎
株式会社ハートフェルト薬局セントラルファーマシー長嶺

23-07-S532-2　臨床課題を基礎研究に繋げ、育薬を考えるための実践と課題～臨床業務と社会人大学院生の両立～

○上ノ段　友里[1,2]
[1]中津市立中津市民病院診療部薬剤科、[2]岐阜薬科大学地域医療実践薬学研究室

23-07-S532-3　社会人大学院で獲得した研究力を組織に還元する ～次世代薬剤師育成と薬剤部マネジメントの実践～

○岸本　真
霧島市立医師会医療センター薬剤部／がん診療病院運営部門

23-07-S532-4　社会人大学院生の研究力育成を支える教育モデル:伴走型指導と個別最適化による学修支援の実践

○徳永　仁
九州医療科学大学大学院医療薬学研究科臨床薬学第一講座

シンポジウム543　　10:30～12:00

実例から学び理論で深める薬剤師のモチベーションー若手から管理職までそれぞれの立場で考えるー

オーガナイザー：武田　千春（医療法人社団東光会TMGあさか医療センター薬剤部）
長谷川　裕矢（社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院薬剤部）
座長：武田　千春（医療法人社団東光会TMGあさか医療センター薬剤部）
長谷川　裕矢（社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院薬剤部）

23-07-S543-1　育成を担う立場となり価値観が変化した、がん領域に携わる主任薬剤師のモチベーションとレジリエンス―個人の挑戦を組織の成長へ

○布田　健吾
医療法人社団東光会TMGあさか医療センター薬剤部

23-07-S543-2　前向きな声かけでチームのモチベーションアップ！病院収益もアップ！～病棟チームマネージャーの立場から～

○花房　喜子
いわき市医療センター薬局

23-07-S543-3 プレイングマネージャーのモチベーションとレジリエンス -特有の大変さの中でいかにやりがいを見出すか-

○長谷川　裕矢
社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院薬剤部

23-07-S543-4 薬剤部長が仲間を誇りに思うということ　～ともに成長する「共育」型組織を目指して～

○高橋　一栄
大阪府済生会野江病院薬剤科

23-07-S543-5 経験を成長につなげる仕組み ―経験学習から考えるモチベーションとレジリエンス―

○田口　恵実
株式会社pharmake

シンポジウム555　14:00～15:30

国際学会で活躍する薬剤師のキャリアデザイン ～キャリア初期からの戦略とチャンスをつかむ力～

オーガナイザー：飯村　洋平（東京大学医科学研究所附属病院）
飯原　大稔（岐阜大学医学部附属病院）
座長：飯村　洋平（東京大学医科学研究所附属病院）
飯原　大稔（岐阜大学医学部附属病院）

23-07-S555-1 国際シンポジウム演者として招かれるまでのリアルストーリー ～臨床現場の実践を国際発信につなげる～

○北洞　美佳
岐阜大学医学部附属病院

23-07-S555-2 臨床薬剤師として歩んできた道の先に～企業・共同研究からMASCC発表へつながる気づきとチャンス～

○横溝　綾子
京都大学医学部附属病院次世代医療・iPS細胞治療研究センター

23-07-S555-3 初めての国際学会が切り拓いたフランスとの国際共同研究-学会参加をキャリアの転機に変える-

○吉田　謙介
東京薬科大学医薬品安全管理学教室

23-07-S555-4 ガイドライン更新に関わる薬剤師の役割 ～エビデンス創出から国際的な標準へ～

○飯村　洋平
東京大学医科学研究所附属病院薬剤部

23-07-S555-5 MASCC Study Group Chairが語る薬剤師の国際キャリア ～臨床・研究・国際活動をつなぐ第一歩～

○飯原　大稔
岐阜大学医学部附属病院

11月23日(月・祝)　　第8会場（ホテル日航金沢　4F　鶴の間C）

シンポジウム533　　8:45〜10:15

2040年の社会課題に向き合う「しなやかなキャリア」－女性薬剤師の実践とマネジメント－

オーガナイザー：小川　充恵（八尾市立病院）
別所　千枝（JA広島厚生連尾道総合病院）
座長：別所　千枝（JA広島厚生連尾道総合病院）
小川　充恵（八尾市立病院）

23-08-S533-1　ライフイベントと環境変化を越えて専門性をつなぐ　―しなやかなキャリアのあり方―

○小池　眞菜美
長野赤十字病院

23-08-S533-2　変化を力に変える―ライフイベントと臨床経験を通じて専門性を深める病院薬剤師のキャリア形成

○三澤　貴美
地方独立行政法人長野県立病院機構長野県立信州医療センター薬剤部

23-08-S533-3　迷いながら見つけた小さな納得解と紡ぐキャリア

○柴田　ゆうか
日本大学薬学部

23-08-S533-4　しなやかに歩み、地域とともに育まれた薬剤師のキャリア―変化を力に変え、次世代へつなぐ―

○小原　道子
帝京平成大学薬学部薬学科

23-08-S533-5　変化の中で育まれた薬剤師キャリア ― 人と組織を育むマネジメント―

○筒井　由佳
社会医療法人近森会近森病院薬剤部

シンポジウム544　　10:30〜12:00

“積み重ね”を“進化”へ 〜これまでのキャリアが導く次の10年〜

オーガナイザー：小林　潤（株式会社クオシアこもろ薬局）
伊藤　隆哉（社会医療法人財団慈泉会相澤病院）
座長：小林　潤（株式会社クオシアこもろ薬局）
伊藤　隆哉（社会医療法人財団慈泉会相澤病院）

23-08-S544-1　「考える」文化が「育つ」組織を創る〜薬剤師キャリアの進化論〜

○伊勢崎　竜也
亀田総合病院薬剤部

23-08-S544-2　地域課題を起点に進化する薬局づくり―事業承継から地域インフラを目指した実践―

○三井　敦
株式会社ふぁるめど岡田薬局

23-08-S544-3　大学病院における薬剤師のキャリア形成と組織的なキャリア支援

○朝倉　充俊
信州大学医学部附属病院

23-08-S544-4　「薬剤師×スポーツ」で拓く次の10年 ―地域薬局から広げる多職種連携とキャリアの進化―

○吉田　哲朗[1,2]
[1]株式会社WACTORYよしだ薬局西陣店、[2]一般社団法人ドーピング０会

シンポジウム556　14:00～15:30

薬剤管理サマリーのネクストステージ～病院間・施設間連携における評価と実践～

オーガナイザー：荒川　隆之（医療法人長久堂野村病院）
澁田　憲一（医療法人良秀会グループ法人事業本部）
座長：澁田　憲一（医療法人良秀会グループ法人事業本部）
渡邉　学（社会医療法人駿甲会コミュニティーホスピタル甲賀病院医療技術部部長）

23-08-S556-1　薬剤管理サマリーの価値と展望～令和5年度改訂・有益事例収集を通じて～
○荒川　隆之
医療法人長久堂野村病院診療支援部薬剤科

23-08-S556-2　切れ目のない薬物療法をめざす薬剤師間連携 ～情報提供から共有へ～
○菅原　隆文
地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立広島市民病院薬剤部

23-08-S556-3　薬剤管理サマリーで地域をつなぐ～返書から広がる薬物療法支援の「わ」～
○新井　真澄
医療法人光仁会春日部厚生病院薬剤部

23-08-S556-4　薬剤管理サマリーを組織の知見へ　～生成AIを活用した分析と質向上への取り組み～
○加藤　豊範
小林記念病院診療技術部/健康管理センター

23-08-S556-5　令和8年度診療報酬改定における薬剤業務の評価
○井上　大輔
厚生労働省医薬局医薬品審査管理課化学物質安全対策室

11月23日(月・祝)　第9会場（ホテル日航金沢　3F　孔雀の間A）

シンポジウム534　8:45～10:15

核医学のいろは―これからの核医学療法に向けた出発点―

オーガナイザー：仲　定宏（大阪大学医学部附属病院薬剤部）
眞継　賢一（関西電力病院）
座長：仲　定宏（大阪大学医学部附属病院薬剤部）
黒岩　勇人（関西電力病院薬剤部）

23-09-S534-1　核医学診断・療法の基礎と展望
○志水　陽一
京都大学医学部附属病院

23-09-S534-2　大学病院における核医学領域での薬剤師の役割
○仲　定宏
大阪大学医学部附属病院薬剤部

23-09-S534-3　放射性リガンド療法と薬剤師の関わり　―市中病院薬剤師の立場から―
○黒岩　勇人
関西電力病院薬剤部

23-09-S534-4　新規核医学治療導入における看護師の役割開発 ―PRRT導入経験から考える多職種連携と薬剤師への期待―
○服部　悦子
関西電力医学研究所

シンポジウム545　10:30〜12:00

放射性リガンド療法を放射性抗がん薬としてどう扱うか― 薬剤師が今知るべき適正使用・品質管理・患者対応 ―

オーガナイザー：加納　大輔（国立がん研究センター東病院薬剤部）
八島　秀明（群馬大学大学院医学系研究科）
座長：加納　大輔（国立がん研究センター東病院薬剤部）
八島　秀明（群馬大学大学院医学系研究科臨床薬理学講座）

23-09-S545-1　治療用放射性医薬品の基礎知識－安全・有効に用いるために－

○間賀田　泰寛
浜松医科大学光医学総合研究所

23-09-S545-2　RLTを支えるチーム医療における薬剤師の役割と今後への期待

○志水　陽一
京都大学医学部附属病院

23-09-S545-3　放射性抗がん薬としてのRLTに薬剤師はどう関わるか ―核医学認定薬剤師の実践と課題―

○鈴木　秀隆
国立がん研究センター東病院薬剤部

23-09-S545-4　核医学専門医の立場から見た放射性医薬品専任薬剤師の必要性と今後の課題

○伊藤　公輝
国立がん研究センター中央病院放射線診断科

共催：一般社団法人日本核医学会

シンポジウム557　14:00〜15:30

薬剤師が知っておきたい眼科療法の最前線

オーガナイザー：大竹　裕子（近畿大学薬学部）
平　大樹（京都大学医学部附属病院薬剤部）
座長：大竹　裕子（近畿大学薬学部製剤学研究室）
平　大樹（京都大学医学部附属病院薬剤部）

23-09-S557-1　開業医が伝える薬物療法と手術の選択基準

○岡本　紀夫
おかもと眼科

23-09-S557-2　大学病院勤務医が伝える術前後の点眼療法

○小早川　信一郎
日本医科大学武蔵小杉病院

23-09-S557-3　処方設計による点眼剤の丸ごと理解

○礒脇　明治
千寿製薬株式会社研究開発本部製品開発研究所

23-09-S557-4　老視矯正のアンメットニーズと薬物療法の可能性

○長井　紀章
近畿大学薬学部製剤学研究室

23-09-S557-5　サプリメントによるQOV（Quality of Vision）改善の実際と今後の展望

○中澤　洋介
同志社女子大学薬学部衛生化学研究室

11月23日(月・祝)　　第11会場（ホテル日航金沢　3F　孔雀の間C）

シンポジウム535　　8:45～10:15

薬学実務実習において大学と病院に求められる連携と教育について ～薬学教育が変われば、薬剤師が変わる～

オーガナイザー：段林　正明（京都桂病院薬剤科）
小佐野　博史（帝京大学薬学部）
座長：段林　正明（京都桂病院薬剤科）
小佐野　博史（帝京大学薬学部）

23-11-S535-1　令和4年度改訂モデル・コア・カリキュラムにおいて求められる薬学教育の質保証～臨床実習が変われば、薬剤師が変わる～
○平田　收正
京都薬科大学

23-11-S535-2　チーム医療における薬剤師の専門性をいかに育むか
－集中治療領域における臨床教育の実践－
○篠崎　浩司
国際医療福祉大学成田病院成田薬学部

23-11-S535-3　講義・見学中心から症例検討を軸とした実習への転換～与えるから深めるへ～
○佐藤　史織、橋本　晴香、陸丸　幹男
大分市医師会立アルメイダ病院薬剤部

23-11-S535-4　大学の学びを現場で活かす「橋渡し」の実習　～参加・体験型実習で育む学生の主体性～
○辻井　聡容
公立豊岡病院薬剤部

23-11-S535-5　医薬品情報管理室と大学教育を繋ぎ、未来の薬剤師を紡ぐ
○吉田　美奈
JCHO大阪病院薬剤部

23-11-S535-6　社会から求められる臨床薬学教育を目指して　臨床現場に繋ぐ大学での臨床薬学教育
○大津　史子
名城大学薬学部

共催：一般社団法人日本薬学教育学会

シンポジウム546　　10:30～12:00

薬学実務実習から薬剤師臨床研修へ ― 学生から薬剤師への移行期教育をどうつなぐか ―

オーガナイザー：橋本　幸輝（公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部）
座長：中村　智徳（慶應義塾大学薬学部）
橋本　幸輝（公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部）

23-11-S546-1　薬学実務実習から卒後臨床研修へつなぐ薬学教育の課題
○中村　智徳
慶應義塾大学薬学部

23-11-S546-2　薬剤師臨床研修ガイドラインの実装ー中小病院の実践例から考える、応用可能な研修のエッセンスー
○大木　稔也
IMSグループイムス三芳総合病院薬剤部

23-11-S546-3　地域病院と連携した卒後臨床研修による薬剤師育成モデル

○川上　貴裕
金沢大学附属病院薬剤部

23-11-S546-4　多様な医療ステージを活用した施設連携型薬剤師卒後研修の実践

○鈴木　慶介[1,2,3]、溝口　由梨香[4]、瀬戸　弘和[5]、森　裕也[4]、鈴木　俊一郎[4]、山嵜　真里[1]、榎本　貴一[6]、米田　勝晃[7]、南　嘉輝[8]、坂　啓子[9]、福永　貴志[10]、吉村　和子[11]、諸星　総一[12]、大谷　俊裕[3,13]、大久保　勝也[2,3]、三枝　邦康[2,4]
[1]公益社団法人地域医療振興協会台東区立台東病院・老人保健施設千束、
[2]公益社団法人地域医療振興協会JADECOMアカデミーセンター、[3]公益社団法人地域医療振興協会医療人材部、
[4]公益社団法人地域医療振興協会東京ベイ・浦安市川医療センター、
[5]公益社団法人地域医療振興協会伊東市民病院、[6]公益社団法人地域医療振興協会練馬光が丘病院、
[7]公益社団法人地域医療振興協会市立奈良病院、[8]公益社団法人地域医療振興協会三重県立志摩病院、
[9]公益社団法人地域医療振興協会シティ・タワー診療所、[10]公益社団法人地域医療振興協会東京北医療センター、
[11]公益社団法人地域医療振興協会上野原市立病院、[12]公益社団法人地域医療振興協会あま市民病院、
[13]公益社団法人地域医療振興協会石岡第一病院

23-11-S546-5　卒後臨床研修を経験した若手薬剤師からの提言　―主体的な学びを育む移行期教育の実現に向けて―

○木村　俊哉
公益財団法人がん研究会有明病院薬剤部

シンポジウム558（フレッシャーズ・カンファランス活性化委員会・医療薬学教育委員会）

14:00～15:30

研究の入口に立つ会員を応援するフレッシャーズ・カンファランス

オーガナイザー：伊藤　清美（武蔵野大学薬学部）
村木　優一（京都薬科大学臨床薬剤疫学分野）
座長：城野　博史（熊本大学病院薬剤部）
竹内　裕紀（東京医科大学病院薬剤部）

23-11-S558-1　若手薬剤師の臨床研究を育む場としてのフレッシャーズ・カンファランス活性化の試み

○濃沼　政美
帝京平成大学薬学部薬学科大学院薬学研究科

23-11-S558-2　優秀演題賞受賞を契機としたCQからRQへの展開と臨床現場発の研究キャリア

○佐川　喬也[1,2]、浜田　幸宏[1,2]
[1]高知大学医学部附属病院薬剤部、[2]高知大学大学院総合人間自然科学研究科

23-11-S558-3　フレッシャーズ・カンファランスへの参加がもたらす影響を考える～薬局薬剤師の業務を実践して～

○八島　千遥
株式会社タウンメディカル

23-11-S558-4　フレッシャーズ・カンファランスで得た経験と、その後の研究活動

○清水　菜々子
金沢大学附属病院薬剤部

23-11-S558-5　フレッシャーズ・カンファランスに期待すること

○寺田　智祐
京都大学医学部附属病院薬剤部

11月23日(月・祝)　　第13会場（金沢市アートホール　6F　ホール）

シンポジウム536　　8:45～10:15

薬剤師業務の可視化と医療安全の向上～トレーサビリティによる業務改善と将来展望～

オーガナイザー：鵜飼　和宏（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）
吉田　直樹（大阪大学医学部附属病院）
座長：折井　孝男（東京医療保健大学大学院）
橋本　さつき（金沢大学附属病院薬剤部）

23-13-S536-1　トレーサビリティ向上に向けた行政の取組と将来展望

○宮崎　翔吾
厚生労働省医薬局医薬安全対策課

23-13-S536-2　GS1バーコード活用による調剤業務改革 ～タスクシフト・タスクシェアの実現～

○大塚　早貴
社会医療法人財団仁医会牧田総合病院

23-13-S536-3　バーコード照合ログを用いたピッキングエラーの解析

○鵜飼　和宏
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部

23-13-S536-4　諸外国での医療用医薬品のバーコード表示とトレーサビリティの動向

○植村　康一
GS1Japan

シンポジウム547　　10:30～12:00

2040年の患者安全を創出する医療薬学研究-臨床現場から社会実装へ-

オーガナイザー：板井　進悟（金沢大学附属病院薬剤部/医療安全管理部）
座長：板井　進悟（金沢大学附属病院薬剤部/医療安全管理部）
舟越　亮寛（亀田総合病院薬剤部）

23-13-S547-1　医療の担い手として－患者安全のために薬剤師ができること－

○田中　和美
群馬大学大学院医学系研究科医療の質・安全学

23-13-S547-2　ポリファーマシー対策による患者安全の創出と継承―病院・薬局による医療安全と地域連携―

○武藤　浩司
新潟市民病院薬剤部

23-13-S547-3　院内データを活用した薬剤関連リスクの可視化と患者安全への実装―B型肝炎再活性化対策を題材に―

○梶田　貴司
公益財団法人天理よろづ相談所病院医療安全管理室

23-13-S547-4　補完代替療法を利用するがん患者の安全をどう支えるか―薬局薬剤師による対話と支援のあり方を考える―

○野村　洋介
和歌山県立医科大学医学薬学総合研究科

シンポジウム559（市民公開講座）　14:00〜15:30

これからの安心をつくる、くすりの安全と仕組み〜薬害エイズ和解30年：当事者・行政・薬剤師とともにつくる未来〜

オーガナイザー：石井　聡一郎（広島大学病院薬剤部）
　　畝井　浩子（T&Tタウンファーマ株式会社）
座長：石井　聡一郎（広島大学病院薬剤部）
　　米澤　美和（石川県立中央病院薬剤部）

23-13-S559-1　薬害エイズ被害者の視点における、専門職への期待

○花井　十伍
特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権

23-13-S559-2　薬害エイズ事件の教訓を医薬品の安全対策に生かすために（行政の視点）

○佐藤　大作
厚生労働省

23-13-S559-3　薬害の教訓を未来の安心へ：HIV治療の進歩と、安全に薬を使い続けるために薬剤師ができること

○増田　純一
国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター

11月23日（月・祝）　第14会場（ホテル金沢　4F　エメラルドA）

シンポジウム537　8:45〜10:15

全国調査から読み解く周産期医療における病院薬剤師の現在地と未来 ― 病院薬剤師の関与実態と医療貢献 ―

オーガナイザー：畠山　史朗（東北医科薬科大学薬学部）
　　小澤　秀介（信州大学医学部附属病院薬剤部）
座長：畠山　史朗（東北医科薬科大学薬学部病院薬剤学教室）
　　小澤　秀介（信州大学医学部附属病院薬剤部）

23-14-S537-1　妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師，妊婦・授乳婦専門薬剤師の普及実態―全国調査から見えた現状と展望―

○三木　陽介
JA広島総合病院薬剤部

23-14-S537-2　病院薬剤師は周産期医療に何をもたらすか―スコーピングレビューによる医療貢献の体系的整理―

○岩佐　千尋[1]、三木　陽介[2]、菊池　大輔[3,4]、杉浦　あゆみ[5]、赤阪　未来[6]、小澤　秀介[7]、畠山　史朗[8,9]
[1]千葉県済生会習志野病院薬剤部、[2]JA広島総合病院薬剤部、[3]東北医科薬科大学薬学部地域医療薬学教室、[4]東北医科薬科大学薬学部社会薬学マネジメント寄附講座、[5]一宮市立市民病院薬剤局、[6]岡山医療センター薬剤部、[7]信州大学医学部附属病院薬剤部、[8]東北医科薬科大学病院薬剤部、[9]東北医科薬科大学薬学部病院薬剤学教室

23-14-S537-3　妊婦・授乳婦専門薬剤師および妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の活動実態の定量的評価―全国調査から見えた医療貢献と課題―

○杉浦　あゆみ
一宮市立市民病院

23-14-S537-4　病院薬剤師による妊婦・授乳婦支援の施設間格差に関与する促進要因と阻害要因―全国調査から見える施設格差の構造―

○小澤　秀介
信州大学医学部附属病院薬剤部

23-14-S537-5　がん・生殖医療、生殖補助医療における病院薬剤師の関与実態―病院薬剤師業務の新たな展開―

○赤阪　未来
国立病院機構岡山医療センター

シンポジウム548　10:30～12:00

妊婦授乳婦専門薬剤師～その力とさらなる貢献への期待～

オーガナイザー：西村　あや子（北海道大学病院薬剤部）
中島　研（横浜南共済病院薬剤科）
座長：香西　祥子（岡山大学病院薬剤部）
松岡　順子（日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部）

23-14-S548-1　専門薬剤師が実践する質の高いカウンセリングの実際

○西村　あや子
北海道大学病院薬剤部

23-14-S548-2　妊娠・授乳と薬に関する情報の評価と新たなエビデンスの創出

○中島　研
横浜南共済病院薬剤科

23-14-S548-3　専門薬剤師が行う新たな情報発信の取り組み～授乳と薬に関する情報提供システムを用いた情報発信～

○香西　祥子
岡山大学病院薬剤部

23-14-S548-4　薬剤師と医師で行うShared Decision Makingと対話力

○伊藤　直樹
帝京大学医学部附属病院小児科

23-14-S548-5　妊婦授乳婦専門薬剤師への期待：母子の被害防止の観点から

○佐藤　嗣道
東京理科大学薬学部薬学科

シンポジウム560　14:00～15:30

エキスパートが語る小児薬物療法！～成人医療とのギャップを埋める実践的アプローチ～

オーガナイザー：小川　隆弘（北里大学病院薬剤部）
清水　啓道（東京大学医学部附属病院薬剤部）
座長：内田　淳（山梨大学医学部附属病院薬剤部）
山谷　明正（明治薬科大学薬学部薬学教育研究センター臨床薬学部門小児周産期薬学）

23-14-S560-1　成人医療と小児医療のギャップを埋める ―小児薬物療法への入口としてー

○清水　啓道
東京大学医学部附属病院薬剤部

23-14-S560-2　小児への服薬指導とかかわり

○詫間　梨恵
医療法人財団はるたか会あおぞら診療所薬剤師

23-14-S560-3　その検査値、本当に異常ですか？ - 腎機能評価を中心に学ぶ小児特有の検査値アセスメント -

○小川　隆弘
北里大学病院薬剤部

23-14-S560-4　小児Diabetesの管理と支援

○外間　登
琉球大学病院薬剤部

23-14-S560-5　小児急性リンパ性白血病の成人小児合同臨床試験から見える成人と小児の違い

○建部　泰尚
岡山大学病院薬剤部

11月23日(月・祝)　　第15会場（ホテル金沢　4F　エメラルドB)

シンポジウム538　　8:45〜10:15

薬剤師による症例カンファレンスの実践 ― 臨床・教育・学術の目的に応じた設計と展開 ―

オーガナイザー：北原　加奈之（亀田総合病院薬剤部）
矢野　良一（大阪医科薬科大学薬学部）
座長：北原　加奈之（亀田総合病院薬剤部）
矢野　良一（大阪医科薬科大学薬学部）

23-15-S538-1　本邦における薬剤師による症例検討会の実態と症例検討会実践ガイドブックの位置づけ

○矢野　良一
大阪医科薬科大学薬学部

23-15-S538-2　中小病院における毎日・全日勤薬剤師参加型の臨床目的症例カンファレンスの実際と運営の工夫

○佐古　守人
東住吉森本病院薬剤部

23-15-S538-3　症例カンファレンスによる臨床薬剤師教育〜当院と米国レジデンシーの実践から〜

○前田　幹広
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院薬剤部

23-15-S538-4　認定・専門資格取得にむけた症例サマリの質向上に資する症例検討会の継続

○岡野　麻衣
金沢大学附属病院薬剤部

23-15-S538-5　薬剤師による症例カンファレンスの実践と継続要因の検討―亀田総合病院における探索的分析を踏まえて―

○辻村　舜
亀田総合病院

シンポジウム549　　10:30〜12:00

学校教育と医療をつなぐヘルスリテラシー　〜 がん教育・薬物乱用防止教育とAYA支援に関わる薬剤師の役割〜

オーガナイザー：伊藤　剛貴（草加市立病院）
川田　亮（羽生総合病院薬剤科）
座長：中山　季昭（埼玉県立がんセンター薬剤部）
川田　亮（羽生総合病院薬剤科）

23-15-S549-1　「ダメ、絶対。」はα世代に響くのか？　〜オーバードーズ時代に薬学的リテラシーで挑む薬物乱用防止教室〜

○川田　亮
羽生総合病院薬剤科

23-15-S549-2　学校教育と医療をつなぐ学校薬剤師の役割 ― 子どもたちに伝えたい「命の大切さ」―

○濱里　大吉
株式会社オオノプラザ薬局

23-15-S549-3　がん教育を医療に活かす－がん教育を「点」から「線」、そして「面」へつなぐ薬剤師の役割―

○芝崎　由美子
さいたま市民医療センター薬剤科

23-15-S549-4　AYA世代がん患者の"相談できる力"を支える薬剤師の役割 ― 医療現場からみたヘルスリテラシー支援 ―

○小室　雅人
国立健康危機管理研究機構医療情報基盤センター

23-15-S549-5　臨床薬剤師が知っておくべき学校教育のピットホール　―「伝える」から「伝わる」健康教育へ―

○田口　真穂
横浜薬科大学薬学部

シンポジウム561　14:00～15:30

「人はなぜ集まるのか」病院薬剤師確保の事例からその手法と教訓を学ぶ

オーガナイザー：花香　淳一（小山記念病院薬剤部）
座長：花香　淳一（小山記念病院薬剤部）
熊井　正貴（北海道大学病院薬剤部）

23-15-S561-1　マーケティング理論を応用した薬学生採用戦略

○亀井　健人
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院

23-15-S561-2　組織内ブランディング活動について

○青山　剛
公益財団法人がん研究会有明病院

23-15-S561-3　SNS時代の広報戦略～地方病院における職場づくりと薬剤師確保の実践例～

○島袋　朝太郎
社会医療法人敬愛会中頭病院薬剤部

23-15-S561-4　薬剤師はなぜ集まったのか―地方中核病院における17年間の取り組み―

○花香　淳一
小山記念病院薬剤部

11月23日(月・祝)　　第16会場（ホテル金沢　5F　アプローズ）

シンポジウム539　　8:45〜10:15

災害医療の多様化に応える薬剤師のネットワーク 〜災害派遣医療チームの相互理解と円滑な連携を目指して〜

オーガナイザー：岡田　守弘（北陸大学薬学部）
柴田　隼人（愛知医科大学災害医療研究センター）
座長：岡田　守弘（北陸大学薬学部）
柴田　隼人（愛知医科大学災害医療研究センター）

23-16-S539-1　DMATの立場から 〜薬剤師に知ってほしいDMATの活動と連携のポイント〜
○柴田　隼人
愛知医科大学災害医療研究センター

23-16-S539-2　DPATの立場から 〜災害時における精神科医療とメンタルヘルスケアにおける薬剤師の役割〜
○藤江　直輝
大阪府立病院機構大阪精神医療センター薬局

23-16-S539-3　DICTの立場から　―役割理解と災害医療チームとの連携―
○高山　和郎
東京大学病院

23-16-S539-4　県薬剤師会の立場から 〜大規模災害における県境を越えた継続的薬事支援体制の構築〜
○林　秀樹[1,2]、小池　紫[1,2]、山下　修司[1,2]、棚瀬　友啓[2]
[1]岐阜薬科大学地域医療実践薬学研究室、[2]一般社団法人岐阜県薬剤師会

23-16-S539-5　DMAT・国際緊急援助隊を経験して見えたNPO災害支援の価値と可能性　〜ピースウィンズ・ジャパンの活動から〜
○渡邉　暁洋
国立健康危機管理研究機構DMAT事務局

23-16-S539-6　DiaMATの立場から 〜災害時糖尿病医療支援における活動と薬剤師との協働〜
○岡田　守弘
北陸大学薬学部薬学科

シンポジウム550　　10:30〜12:00

次世代の災害対応を考える〜医療薬学と社会システム科学の融合/災害対応を科学する〜

オーガナイザー：小林　政彦（日本赤十字社大阪赤十字病院薬剤部）
高山　和郎（東京大学医学部附属病院薬剤部）
座長：眞野　成康（東北大学病院薬剤部）
森戸　敏志（石川県済生会金沢病院薬剤部）

23-16-S550-1　情報を支援へ変換する災害薬事コーディネート　―令和6年能登半島地震の経験と展望―
○中出　順也
金沢大学附属病院薬剤部

23-16-S550-2　災害時の情報収集と分析および意思決定に繋げるためのシステム作り
○市川　学
芝浦工業大学システム理工学部

23-16-S550-3　大阪府病院薬剤師会におけるD24H for Pharmacist実証訓練について

○竹上　学
近畿大学病院薬剤部

23-16-S550-4　災害薬事情報システムの将来構想

○高山　和郎
東京大学病院

シンポジウム562　14:00〜15:30

災禍を超える英知の継承〜備えの「育み」を使命の「実践」へ繋ぐ災害薬事教育戦略〜

オーガナイザー：安藝　敬生（小倉記念病院薬剤部）
原　直巳（東京薬科大学臨床薬学大講座）
座長：安藝　敬生（小倉記念病院薬剤部）
中出　順也（金沢大学附属病院薬剤部）

23-16-S562-1　点の備えから面の備えへ〜人材育成を実践へ繋ぐ受援体制構築の試み〜

○栗原　弘紀
埼玉医科大学病院薬剤部

23-16-S562-2　座学から実践へ橋渡しする災害薬事教育の実際と課題

○原　直己
東京薬科大学薬学部臨床薬学大講座

23-16-S562-3　災害時に「組織を動かす」管理者を育てる ―意思決定・組織運営・調整能力をどう育むか―

○日高　伸之介
社会医療法人緑泉会米盛病院

23-16-S562-4　災害医療におけるピットフォール〜専門性発揮の土台として薬剤師に求められるCSCA・ロジスティクス習得へ挑む〜

○若杉　和美[1,3]、安藝　敬生[2]、木谷　貴嘉[3]、白石　千秋[3]、朝長　さつき[3]、山下　和範[3]
[1]長崎大学病院薬剤部、[2]小倉記念病院、[3]長崎大学病院災害医療支援室

主要プログラム

年会長講演(YPL)

会頭講演(PL)

特別講演(SL)

教育講演(EL)

日本医療薬学会賞受賞・学術賞受賞・奨励賞受賞講演(AW)

Postdoctoral Award受賞講演(PA)

年会企画シンポジウム(YPS)

年会企画国際シンポジウム(YPIS)

ワークショップ

シンポジウム

※( ) 内は演題番号の記載方法
※シンポジウム

21 - **02** - **S001** - **1**

発表日　会場　セッション番号　発表順